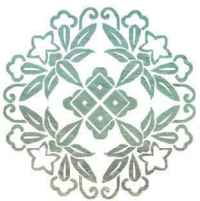


なやみ 解決の探し方と

運命の法則



「はじめに」
「今時代に生まれた意味の章」
「何に負けているのかの章」
「なやみ解決の探し方の章」
「行動できない？人の考察の章」
「運命のしくみの章」
「運命の法則の章」
「学びとは何の章」
「学び(かえりみてはぶく)の章」
「許しの章」
「人として歩むの章」
「惟神の章」

序章
第一章
第二章
第三章
第四章
第五章
第六章
第七章
第八章
第九章
第十章
終章



猪岡鷹壤 著

※日本文化と魂や霊を信じる方のためにこの著書は書かれています。

※この著書は眠らせておくのは惜しいという声が多数あり、このたび小修正を加えてPDF書籍にて公開に踏み切りました。

※この著書は平成十九年に書いていた関係で現在状況と些かの違いがあることをご了承くださいませ。本文中対話風景にて和源神道大祝の事をご相談に来られた方が相性的な意味で先生や陰陽師さん等と呼ばれていたことがあり、その時代の名残をそのまま残しています。和源神道伝承内に陰陽道には関係してありますが、律令制下の陰陽師とは違いがありますのでご了承くださいませ。

「なやみ解決の探し方と運命の法則」の著作権は猪岡(和源)鷹壤にあります。著作管理をなしております和源神道に無断で本著書の転載、改変、再配布、販売することを禁止します。

この著書を紹介目的で内容改変なく知人への譲渡は許可いたします。

但し使用規約を改変することがありますので「和源神道公式サイト」にてご確認くださいませ。

<http://www.ibara.ne.jp/~konzin>

※今後修正などを加える可能性があり、もくじのページは最低限にとどめています。
※現在一般の方のご相談は控えております。占いなどの鑑定書はお受けすることがあります。

序章 「はじめに」

「憂いと失望と、そして希望」
「本の意図するところ」

第一章 「今の時代に生まれた意味の章」

「人として生れたという宿命」 生まれてきたには理由があります。
「現社会に生きている意味①」 貧乏から貧困へ
「現社会に生きている意味②」 いま必要な精神性の学び、鷹山と方谷より

第二章 「何に負けているのかの章」

「答えはあたえてもらえない、探すもの」
「人としての視野の短さ」
「たなぼた式幸福論への疑問」
「情と理性と品格のつりあい」
「何とかならない時もある」
「立ち直りと学びと準備・・・そして歩み」学びの順番など

第三章 「なやみ解決の探し方の章」

「人生のページをめくる時」 小説と人生図・人間万事塞翁が馬
「悩み癖より出る勇氣」 アクション映画の綱渡りと千里の道も一歩から
「なやみってどんなかたち」 瞑目悩み要点・8つの要点書き出し
「人にも立場や理由がある」 生活思考環境・考えかたの違いの誤解

「全体像がみえない」 書き出す理由と図説・重力の話し体積の話
「我慢していれば」 狡兎三窟の話・人間に口は一つ耳は二つだから・・・
「誰もわかってくれない」 ヒソヒソ話コメント風16個
「過去の栄光」 まちぼうけの話・船印剣探の話
「進む先が見えない」 怪物は襲ってこないよ。だいじょうぶ。
「多面的客観性」 主観、客観の図説・心の中の反対心のはなし
「ある相談者とのお話風景」 相談の風景

第四章 「行動できない？人の考察の章」

「相手に伝える工夫」 8つのポイントと日頃の心得の話
「なかなか行動できない人の特徴」 13個の特徴をあげてみる
「相談事の風景①人生が見えなくなった」
「相談事の風景②うまくいかない」

第五章 「運命のしくみの章」

「運命とは自意識の角をとる川の流れ」
「不幸な人は不幸な話しか出てこない」
「運命の半分の仕事は・・・」 運命の選択図ツリー式の図
「人生の可能性と決断の逆三角形」 運命の選択範囲の概念のお話し
「オーラの美しさUPの秘訣」 オーラの存在証明と心と誠意のお話し

第六章 「運命の法則の章」

「運命とは同じ状況が続かない性質を持つ」
「運命は太陽と気温の運行は相事象」
「運命とは中心に戻る力が常に働く」

第七章 「学びとは何の章」

「学びは知識の獲得のみではない」 学びとは知識を得つつ自己作り
「まねびて学ぶ、思索しておこなう」 先人の知恵を一度自分に通してみる
「心の大地の創造」 いつも自分が戻る心得を自分で作る

第八章 「学びかえりみて、はぶくの章」

「外に動けぬなら内に・・・」
「状況の整理」
「日々をかえりみるごと」
「社会状況の備忘」

第九章 「許しの章」

「許しとは留まらないこと」
「自分をキレイに許すには」 日々の人格的研鑽と向上の努力が光を与える
「他者をキレイに許すには」 運命のしくみを知り、体感すること

第十章 「人として歩むの章」

「今という中に生きる」 今という刹那の中に生きている私たち
「心の四季」 喜怒哀楽と天地の運行は同じようなもの
「用・美・道のお話」 温故知新、用美道のお話と深き摂理の体験の紹介

終章 「惟神の章」

「人生という宿命」 宇宙という大いなる存在と詩の紹介

「なやみ解決の探し方と運命の法則」

猪岡鷹壤書

序章 「はじめに」

「憂いと失望、そして希望」

多くの人とのお話し、相談や占いを通して感じた、これからの社会に必要な一言でいえない何かが私の胸に重く渦巻いた。

それは以前より持っていた感情

それは憂いという感情

それは失望という現実

そうして一滴の希望

そうしたもののが今もわたしの中に潜んでいる。

それを言葉にあらわそうとした時より、個人技としての相談や占いの場面から講演という場面に移らざるをえなかつた。

人生の場面転換・・・勇氣を持って進むこと

人生の場面転換・・・ころざしを折らないこと

その気持ちだけで突き進んだようなものだ。

さてわたしは何を憂いて何に失望し何が見えてきたのだろうか？それをお話ししなくてはいけない。

最初にわたしは何者なのか簡単にお話しするでしょう。

私は岡山県井原市という地域に住んでいて相談や占いそして祭祀というものに関わらせていただいている。

それは偶然でもあり必然でもあった。私の中に漠然とした疑問がありそれを探求し発

見たいという気持ちがあるが私を突き動かす、たまたま祖父より家伝の祭祀の礼法や基礎的な心得などを鍛えてもらったという事もあるかもしれない。その伝授は山神様を祭っている場所より始まり、手伝いの合間や祖父の時間の空いたときに思い出したように伝授してもらった。

注意しなくてはならないのは私の家の誰でもがこれを知っているわけではない。祖父との間のみの出来事だということだ。近年まで・・・祖父の三年忌までは秘すという約束であったので誰にも語ったことは無い。

そうして後、飛騨高山での古代文明と精神的な研究のため「時の旅人」という会をたちあげ、更なる研鑽のため大阪に居を移し皇學館大学文学博士課程終了の(故)村野猛先生より教えを受けた。

そうして郷里に戻り本格的に疑問に向かうために勤めをやめて相談などの活動を始めた。最近では愛称でだが陰陽師さん等と呼ばれることもあるが、けっして陰陽師というわけではない。

今までに様々なお手伝いや活動などの結果、ふと振り返ってみると、およそではあるが2700人以上の方々とお話してきたということになるようだ。

私の中にあつた憂いは、精神的に子供もさまよっているが大人もさまよっているという漠然としたものであつた。それを感じ始めたのは小学校の頃からだがその当時はわかるはずもない。

次第に頭の中が整理されていって、次ぎの時代を予測する事の大切さ、人として大切な心得などの話しが友人知人その周囲の人の口からほとんど語られることが無かつたという失望があつた。

失望に負けてはいけない、その失望と憂いに気付いた人が先に探求と研究に歩むのが役割だろうと心した。

現社会において失望と憂いは現実のものとなりつつある。行政が発表したものだと言っているが、中学生の四分の一がうつ傾向であり無気力

である。

物理的に物が無い「貧乏」という話題から、精神的な欠乏をあらわす「貧困」という話題がちまたで飛び交うようになってきた。

相談を受けても、人生に対する考え方がとても希薄な方が多く、自分の失敗を人や出来事のせいにして生きている人の多いこと目をあけていられないくらいだ。

私は思う、うるわしき日本の精神的な文化は何処にいったのか？と。

私は考えた、精神まで困窮する時代に必要なものは何？と。

相談と占いで得た体験と昔から伝わっている知恵を混ぜ合わせ、必要な知識や心得を蒸留してみようとしたのがこの度の文書だ。

希望の一つ、相談に来られた人の中に、まれに困難な状況を打開し精神的安定を勝ち得たという事実

希望の一つ、私の考え方や思想に賛同して協力してくれている大切な仲間たちがいるという事実
願わくば二つの希望が三つ目の希望を生み出して欲しい。
そう今も願っている。

「JSG本」の巻末に「JUN」

時代性を考慮して学ぶ事や心得を、変化させなくてはならない場合がある。

今の時勢をよく観察してほしい。
今までの日本は、ほぼ単一の言語で弧状形の列島群を占めていたが、近年外国人労働者や外資系企業が相次ぎ、ある意味開かれた日本になり、悪く言えば多国籍間においての強いもの勝ちの世界に、強者・弱者に関わり無く投げ出されるという現実に直面しようとしている。



かなりの田舎である私の住んでいる地域でも、数年前には考えもしなかったほどの海外からの労働者と外国人の経営する店舗が目立つようになってきた。

その場面に注意して見ていくと忍耐と希望がひそんで見出せない活気と自信があふれていた。

その活気の中、日常怠惰した日本人家族連れや見栄ばかり気にする若者があふれかえっていた。

その店は値段も研究してありメニューも幅をきかせ非常に食事客にとつてうれしい内容でしかも便利だが、しかし私の目には活気ある外国人に飼育されている日本人としか写らなかつた。

そのような個人がいきまいてもしようもない環境が、我々のすぐ近くの未来にあることから眼をそむけてはいけぬ。

ではどうすればよいのだろうか？

危機的状況に気付いた・・・それならば思案しなくてはならない。

そうして核となる発想を発見しなくてはならない。

その発見を本書では読者の貴方とすべく考えていきたい。

まず精神的に身動きができません人々を想定して、なやみの解決方法のヒント(個人的な視野という部分に今回は限定します)になるような思案。

一度なやみという場面から回復した時に、次に必要な思想や考え方を配し、実践的な現実の思考基盤を研究していきたいと思います。

またこれは報告書の性格も有しており相談にいられた人で、精神的に上手くいかない人が、自己の精神構造の未熟さを自覚し、現実を力強く歩み始めた事実が本書の根底にあります。

困難な状況でも揺らがない精神を保有し優しさと希望を失わない人格を皆さんに獲得したい。それにはこの本書だけでは到底足りないでしょう。

たとえば運命の移り変わりの法則を知ることであつたり、平等な観察眼であつたり、そ

してどのような人でありたいのかを明確にしていく知識が必要です。

また幼稚心を卒業し無駄のない分別心を獲得し、自分の実力を自覚して、信じれる仲間との親交を深め、それぞれ役割分担をしつつ協力していかなくてはこれからの時代に対応できないだろう。

いまの時代はいい加減な(未熟な)という意味の)技術力や思考力では、立ち行かない時代ともいえます。

精神的に眠っていても大丈夫な豊かな時代は、難波の夢もまた夢の如く、すでに無いと思つたほうが良い。

あなたには偶然に生まれてきたのではなく、この時代を選んで生まれてきた事を自覚してほしい。偶然でない必然には意味があります。

人としての環境の意味・自分の生まれた環境という意味・社会の移り変わりの意味・人の交流の意味をそれぞれ考えていくことをすすめます。

なぜならば時代的に理不尽な環境であるならば、人はそれに耐えて環境を改善する為に思案しなくてはならないからです。

時代が逼迫してくれば、精神性が豊かになるという事実は歴史が証明しています。

そうです、この時代に生まれた貴方は深い精神性を獲得する為に生まれてこの魂の宿題もあるのかもしれない。

自分の過去をいまふりかえってみると、一人こつこつと学んだ時期、精神的に逼迫した時期をとおし、人にまったく認められなかつた時期を過ぎて、やっと今あなたの前にあらわれたのです。

そのような経験を本書に反映させて「立ち直り、歩み始める」

までの知恵をまとめてみたいと思ひます。

その



「人として生れたという宿命」

頭の中でうまくいくことも、いざ現実の中ではうまくいくことが少ないです。これは当たり前のことと言えればそれまでなのですが、どうして上手くいかないのか考える価値はあると思います。

もしも頭で想像したことが一部の漏れも無く、相手に伝える事ができたならもしかしたら上手くいくかもしれないかもしれませんね。もし一部のれも無く想いを伝える事ができたなら、「かも」ではなくそれ以上にできると思われます。

現実には・・・

・人の心がわからない

・したいことが上手く伝わらない

・上手くいくかどうか不安がある

以上あげた三つが、いつもつきまとうてくるのが人の「さだめ」なのででしょうか？このことは「人として生れたという宿命」を考える上で、とても参考になるのです。

日常のなんでもないことにひそんでいる意味に、眼を向けて読み取る努力こそが、この世の真実を解明できる手立てであるといわなくてはなりません。

そうしてこれからの時代に必要な事であるとおもいます。

詳しくは後ほどお話しますが、これからの時代あらゆる場面で社会的に格差が生じてくる事でしょう。出ててくる格差は、個人ではどうしようもない性質のものであり、それを環境としてとらえなくてはなりません。その中でどう生きるか・・・それが新たに問われている現実ではないでしょうか？

人の心がわからない、という事はこういった意味が自分に課せられているのでしょうか？

人類はテレパシーとか伝心術という自分の心を直接相手の心へ伝えるという便利な方法が普及していない以上、相手の心がわからないという環境を基本として考えなくてはなりません。

相手の心がわからないという環境は、宇宙の大いなる意思が私たちに与えたものです。その環境の中で宇宙の意思は「何を貴方に学んで欲しい」のでしょうか？

虚飾を総て取り除いた、他者と貴方の間にあるのは心と言葉です。

貴方は伝える前に頭と心で思います。

わからないからこそ、いたわりを以って推測する事が大切なのではないのでしょうか？

心がわからないといっても言葉で伝える事ができます。

その言葉で、いたわりの心を以って順序良く伝える事が、貴方のすべき一番最初の行動ではないでしょうか？

相手がいます。

相手の心をわからないという事を、あなたの持てるすべての能力をもちいてわかろうとする事が、宇宙の意思の期待している真意と私は思うのです。

人と思いを共有する事ができれば、自然と未来への不安が少なくなるという体験を私は持っています。

どのような仕事についているのであれ、どのような小さな事であれ、そこにこめられた意味は同じものでしょう。

ですからそれらを見失っては「人として生まれたという宿命」を発見する事はできないでしょう。

また人はどのような人生を歩んでるのであれ、人生という宿命という意義に立ち返る事こそ、それぞれの人生にとって大きな意味になるのではないかと思います。

これこそ「真理と体感の交差する現世」でしか発見できないものです。

われわれ人が肉体という入れ物に別々に入っている以上、想いや考えていることがダイレクトに相手の心や脳髓に伝えられない以上、その環境の意味を知り、貧富とか生まれとかに関わり無い真理を、体感し知り得て社会人として以前の、人としての感覚をとりもど

し、困難な時代を歩む力とすべきではないかとおもいます。
大いなる宇宙の意思と呼んでも良いですし、伝統的に神と呼んでも良いですが、我々を創造した存在の意思という、人としての根本的基盤を心しながら様々な知識を身につけ、知識と体験を融合させ、そしてそれを蒸留し知恵と成していく心得が、貧富にかかわらず人と人としての自信をゆらぎなくしていく道ではないかと思えます。

「現社会に生きていく意味①」

社会の移り変わりを予測し、考えなくてはならない時代になったのではないだろうか？
今までの社会は良くも悪くも誰でも働く事ができ、働いて衣食住にせつぱつまることは無い時代だっただろう。もちろんその中でも苦労した人はいるだろうが、全体的に見た社会の裕福さというものについてだ。

なぜ？次ぎの社会情勢を予測しなくてはならないのだろうか？

それは社会全体を通して、余裕の無い時代になってきていて、何も考えず生活していると、思わぬ落とし穴にはまってしまふことになったりする。
状況の変化に注意せずに働いている人も注意してほしい。

変化は突然やってくるのだから・・・

さて社会の余裕が無いとはどういったことかというところ、貧富の格差が大きくなると同時に、仕事をしていても収入が安定しない等の出来事が蔓延する時代。

たとえば今まで貧乏という言葉が普通だったが、今では貧困という言葉が使われ始めている。

この違いはとても大きくて、単純にお金や物が欠乏していながら精神性を失っていない状態から、物理的に欠乏していてその上に精神性をも失い、欠乏状態に **翻弄(ほんろう)** されている人が多くなつてきている、という意味でもあると思います。

精神性が失われると非常に大変です。精神性が維持されていると金銭・物理の欠乏状態

を耐え抜き、自分の力量を向上させ、やがて貧乏という状態を改善できる力が残されているからです。

反対に精神性が低下すると、金銭・物理の欠乏を改善する気力も努力も放棄してしまい、自分の人間力の向上など考えず、手に入ったわずかな金銭で(手に入ればよいのですが)その場その場を適当にやり過ぎす様になってくるのです。その **当惑(たごう)** 兆候はすでにあらわれていて、ネットカフェで暮らすかなりの人数がおられる事実。

余裕が無い時代には、いつ自分に災厄の波が訪れるかわかりません。
それは誰も予想できない事であり避けられる問題ではないのです。なぜならこれは個人が努力しても回避には限界があるためです。

さてこのような時代に我々は何を準備すればよいのでしょうか？それを発見しなくてはならないように思います。

またそれらを探査する観察作業の中に、貴方がこの時代に生まれ何を学ばなくてはならないのかを知る手がかりになるのではないでしようか。

困難な時代には心を許した親友や親しい人の、不幸を見ることもあるでしょう。

そんな姿をあちこちで見えるようになったら・・・天は貴方にこの環境を通して何を考えさせ、どのような学びをしてほしいのでしょうか？

もしかしたら・・・今の時代は何処にでもお金という概念が入り込み、心よりお金や物が中心になって世の中に、人がなくしてはいけない心や精神性を取り戻してほしいという、人々の深層心理がまねきよせた現象かもしれない。

そのように読み取って、困難の時代に学ばなくてはならない必要なものを考えていきたい。

「現社会に生きていく意味②」

歴史から学ぶべき事が何時の時代にもたくさんある。

すこし調べ物をしていたら、とてもよく似た事例があることに気付いた。それは江戸時代の中期頃と後期頃の時代の、(現)山形県米沢市と(現)岡山県高梁市でのこと。

江戸時代中期ごろの山形県米沢では、上杉鷹山といわれる藩主にひきいられ藩政改革にのりだし成功している。また江戸時代末期ごろの岡山県高梁市では、藩の改革を主導した山田方谷という人がいる。

共にある程度の成功をおさめ、今の時代にも名前が伝わっていて参考になるところが多い。
上杉(うすすぎ)鷹山(たかやま)や山田(やまだ)方谷(ほうこく)の功績を知りたかったら、それら本が出ているので購読する事をお勧めする。とても参考になるので良いと思います。

調べていく内にこの二人の共通点が見えてきた。
まず環境を簡単に述べれば、どちらの藩も借金を重ね産業も停滞し、そこで暮らしている領民も生活苦にあえいでいる。そればかりか領国は灰色が覆っているかのよう、武士に出す農民もある。商人・職人すべてその地域に暮らす人の心は沈んでいる。長く続き逃げ出す農民もある。

その絶望的政治状態から、起死回生の改革を成功させたのが鷹山と方谷だ。
心のあり方だ。

江戸時代とは村落の農耕社会から貨幣経済への移行期で、その環境の中さまざまな思想を生み出すこととなった。調べてみると驚くほどすぐれた思想書が残っている。が、この度はそのことが話の主ではない。
政治形態は農業基盤でありながら、時代が下ると共に貨幣が重きを成してきた。政治形態の維持と現実の社会風潮が、かみ合わなくなつたところに藩経済の苦しみがある。

その背景に家族もいるわけだから、人口比率としてもいびつなものであつたのだろう。鷹山と方谷は時期も場所も手法も違うが、領国の人々の心を目覚めさせる事を目的として政策を打ち出していった。
政策を打ち出す前に理解を求め、大変な苦勞の末に理解者を獲得し協力者を得ていった。どうも書類一枚、命令の一言ですましていったわけではなく、体ごとぶつかっていくようなものであつた。

改革の成功者がどのようにな政策で成功したのかが大切ではなく、何を目的としていたのかを知らなくてはならない。なぜならば時代も状況も違うからだ。
わたしは思う、この二人の重視したのは、一人一人の心の建て直しであり、精神の衰亡に目を向けそれと格闘している事に、意義があるのではないかと思う。

金銭や物の欠乏に心が負けている貧困という状態に風を通し、人々に貧困にとどまつている事実を認識させ、心が折れておらねば単にお金や物が無い貧乏であり、貧乏であつても心まで折らない事が大切であると伝えたかつたのであろう。そしてひとり一人が自分を改革し人を信じることを覚え、そこより歩み始めれば貧乏より抜け出せると導いていきたかつたのだろう。

今の時代に・・・これからの時代に必要なことは、自分を磨いて困難に負けない自分を造る事、そして人をいたわることができればよいと考えている。

「答えはあたえてもらえない、探すもの」

「うまくこなすだけが良い方法ではない、気質にあったものが良い。時に自分の失敗を許し他人を許し、内的に目を向け、内なる力を増大させそして後、歩み始める方法もある」

答えを聞き出して上手くわたろうとしても、上手く渡れない場合が多い。それは人と自分の経験や視野が違うからであり、一つの意見として聞けなかった自分に責があると思つたほうが良いだろう。

簡単に答えが出てくるのであれば、誰でもそこに到達しているのであつて、正しい答えを知ろうとするなど無理と思つたほうが良いだろう。

この世に出てきた意味なら諸説あり答える事もできるが、歩んでいく道の答えは自分で探すが答えだろう。

祖父の話していた話を紹介しよう。

祖父曰く、「土地には地味や地力があり、作物の味を決定するもの作物の収穫量を決定するの、その土地の持つている力であつて人ではない。人は地力の限界を可能な限り引き出してやる手伝いをしてるに過ぎない。」と。

つまり自分という大地に人はある程度は立ち入る事はできるが、それは手伝いをする程度しかできないものだと思つたほうが良いだろう。

自分という大地に魂は根を下ろしている。その魂を成長させ開花させるのは大地である貴方なのだ。

貴方という器の大きさを知ることから探してみてはいかがであらうか？
内なる力を蓄えなくては、火山すら噴出すことはないのだから。

「人としての視野の短さ」

「時として人は視野の狭さ短さから、先を見通せず大きな損失をしてしまう事がある。自らの力が小さいものであると知る者は賢き者であり、賢いゆえに思索と準備をするのであ。無闇に進むのは、知恵無き者がする無知であり幼稚である。自分の素質は磨かなければ発揮する事もかなわぬ。人生には人徳と人間力を磨く時期がある。」

最初から力量のある人は存在しない。もし奇跡的にそれがあつたとしても前世や別次元において経験を積んでいる。

普通、人は成長するために前世の経験を消して生まれてきてるのであり、力量がないのは恥ずかしい事ではなく自然な事である。

しかし努力を怠つたということについては、辱と思つてもう一度努力するべきだろう。

視野を広げるには、今まで自分が正しいと思つていた思いを一度脇に置き、いい悪いではなくその本質はどのようなものであるのか、その一点に興味をおくと良い。

べつだん海外旅行や一人旅をしなくてはならないような性質の物ではない。自分の価値観を大切にしながらも、平等な目で見ていくことが求められているのみである。目を見開き視野を広げ自分の可能性を拡大するのです。



「人類はいまだ精神的に太平を感受できる段階まで成長しておらず、自らの足で歩まねば、幸福はおろか自らの地歩すらも崩れかねない。歩く足が萎えるまでは歩むが正しく、幸福が向かってくると考えている時は、幸福はめぐってこない。なぜならば世界で一番おいしい飲み物の想像力が働いていれば、目の前のおいしい飲み物も色あせる事である。人は幻想から覚めたとき、驚愕と共に感謝を覚えるであろう」

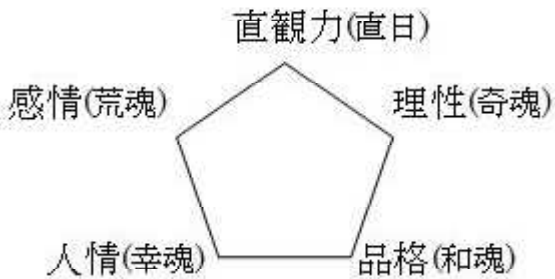
現実には厳しい。いつとき非現実な世界へいつて心と体を休めるのは良い。現実には非現実に入っている時にも動いているのでありとどまることはない。一見わかりやすい理論や言葉は、世界を理解したような錯覚へ逃避させてくれる。しかし物事は、知っているのとそれができるのでは雲泥のちがいがあ。わかりやすい理論は覚えておくだけでよろしく、心地よい言葉は記憶しておけばよろしい。実際に必要なのは現実を直視する勇氣ある目であり、信じていても救われない事があるという事実を知ることである。

信じて救われるのは心であり精神である。時としてある種の奇跡が起こる事は私も体験している。体験しているが奇跡ばかり望んでいては奇跡はおこらない事も知っている。奇跡は自らの努力をいとわぬものにあるのであり、怠慢なものには決してない。人は努力している時に美しく輝くものであり素晴らしいものである。素晴らしいものに温かいものが近寄ってくる性質があるのだろうか。



「情と理性と品格のつらあつ」

「この世は欲望に満ち溢れている。富を得ることは悪い事ではないが、その欲望に流されるとき、果てることのない欲求が貴方を支配し、精神の自由を得ることはかなわないだろう。火と水は決して交わらないが、高い精神性は富を生かす心となるだろう。人という内面において精神性(火)と物理(水)の融合こそ、大いなる意思の願うところであるに違いない」



情があつても物理的に不足してははその力を発揮できない。理性のみ出っ張ってはお硬いだけの人だろう。

品格は情と理性が支えあつて上手く発動するものだと思う。

お金や富を否定したり汚いものだと思う必要も無いと思。今世の生まれてきた理由の一つに内的調和があるのではないかと思

います。

内的調和とは、直観力・感情・人情・理性・品格の五つのバランス

ではないかと思。感情を優先しては理性や品格を落とします。

しかし理性や品格を重視しすぎては人情をそこなう時があります。

感情や理性を重視しては直観力が働かず、核心を見逃す事があり

ります。口で言うのは簡単ですが、実際にはこれら五つのバランス

は難しい課題ではないかと思。

しかしこの課題に向かつてみると、お金も富みも貴方の心を演出

する道具になる事でしよう。

「何とかならない時もある」

「負け知らずだと乗り越えられない壁がある。負けを知り負けを認めるとき、人は大きな中に生かされていることを知る。勝ち負けに生きるおろかさ、負けても生きている自分がある。勝ち負けという尺度で、はかれないものがこの世にはいくらでもある。潔さは時に起死回生の知恵を授けてくれる時がある」

現実にも何ともならない場面は、そうそう無いがあるにはある。

しかしそういつた場合に至らずとも、心が物事を受け入れることを拒否しどうにもならない時がある。よく見てみるとまだ大丈夫であったり、余力があったりする時がある。

すべては心が決定しているといつても過言ではない。

負けは誰にでもある。しかし潔く負けを認めれる人は意外と少ない。

負けを認めれると人間的に幅が出てくる場合が多いようだ。

負けを認めれるのは度量が大きい証拠なのかもしれない。

負けているのに負けを認めない人は現実から逃避している人だろう。

人間性の大ききの違いを感じて負けを悟ったなら、貴方はその人に追いつく切符を手に入れていると思う。

昔より「負けて勝つ」という言葉がある。

この言葉はとてもよい言葉だと思う。考えようによつては負けを科学し、失敗点の洗い出しをして再起を図る準備をする尺度にできるだろう。

勝負はおよそ準備に秘訣がある。

準備するのは物理だけではない。人間性も磨いておく事を覚えておこう。

「立ち直りと学びと準備・・・そして歩み」

「失敗や負けは誰にでもあること。それを受け入れれないのは、愚者であり留まる者である。失敗や負けを認めることができる度量は、そこから歩み出す力を与えてくれる。失敗や負けの中には、勝ちの中では得られない知恵がたくさんある。まずかえりみて省く事を学びなさい。それと共に人間性を磨きなさい。それらの中に新しい道の発見を願うのです。道が見えれば準備です。準備は歩み出す勇気を与えてくれる事でしょう」

立ち直るには何が必要か？それは今を受け入れる事から始まる。

受け入れれば必ず反省し学ぶだろう。

立ち直りようとする愚である。負けてもその事実を受け入れず省みることも無く、おなじ方法

で勝負しようとする愚である。再起を図る気持ちさえ萎えなければ・・・。

世の中は広くて、時として狭い。

いろいろな方法があるはずだ。

人の意見はちゃんと聞いただろうか？

情報収集はしっかりしたか？

労力を惜しんではいなかったか？

失恋ならばまた愛せる人を見つけたか？

いまだできることを、できるところから始めるのが良いだろう。

まずは何処が悪かったのかメモを取ってみよう。

頭の中だけで考えているとおなじところを巡ってしまうよ。



「人生のページをめくる時」

悩み深き人も、悩み少なき人も人生の転換期というものがありません。同じように転換期は訪れるのですが、その受け止め方は千差万別です。もともと悩みこんでしまいう人にとつては、少しの変化もとても大きな変化と感じることでしようし、悩みの少ない人はたいした物と感じないはずで

その人それぞれにある人生の模索期。例えばそれは推理小説の次ぎのページをめくるようなときどきしたものに近いですね。主人公がどうなるんだらうか？とか次ぎの展開はどうなるのだらうか？とか・・・

凶にあらわすと略図のようなものになると思います。このような図を描いてなにを伝えたいのかと言いますと・・・今進展期で安定している人も模索期で切磋琢磨している人も同じような心構えでいて欲しいなと思うのです。

模索期の人は今、目の前の事を曇りなき眼（まなこ）でみてそれを整理して解決できる方法を考えること。または次ぎの人生の1ページをどのようなものにするべきか冷静に

取り出して考えることが大切です。進展期で安定している人は、平安の中にどっぷり浸ることをせず、必ず心乱れるような事がやってくる心し先行研究しておくのが正しいでしょう。

昔からたくさん「格言」や「いましめ」「古典」の中に言われています。その中の二つほどを紹介しましょう。その一つ目は「治にいて乱を忘れず」という言葉です。みなさんご存知かも知れませんが・・・これは読んで字の如く平和な時こそ非常時を忘れてはいけないという意味です。もし知らなかった人は覚えておいてください。

「人間万事塞翁が馬」という古事を聞いたことはありませんか？この出典は「淮南子」という古典の「人間訓」でています。この主人公のお爺さんはどうも占いが上手であつたらしいのですが、飼つていた馬が、ある日逃げ出したのです。それをみて村の人がお爺さん災難だつたね、と、お見舞いをしたのだけど、お爺さんは「まあこんなこともあるよ、もしかしたらお見舞いをつなぐるかもしれないよ」なんていうもので、近頃、逃

げた馬が馬仲間を引き連れて帰つてきたのを見て村の人が「お爺さん良かったね」とお祝いを言つたところ・・・お爺さんは「いやいや嬉しいけど禍の始まりかも知れないね」なんていうものですから、村の人は不思議な顔をして帰つていった。

その家に馬が増えて、馬が増えたら教育しないではいけませんね。おじいさんの息子は馬に乗ることが好きで調教をしていましたのでしようけど、その途中で落馬して足の骨をお爺さん災難だつた大怪我をしてしまったのです。それを聞いて村の人がおつたね、息子さん災難だつたね」と見舞つたところ、お爺さんは「悪いことがおこつたね、でもお爺さんだなどぶつづつ言いながら帰つていった。

その人はおつたね、でもお爺さんだなどぶつづつ言いながら帰つていった。お話を戦争は激戦で10人中9人まで帰らなかつた。しかしお爺さんの息子が怪我の後遺症で足が不自由だつたのでお爺さんも息子も無事だつた。というこの話なんですが、幸福とか不幸とか予測できないんだよ。とい

うことが教えることができることは、平安な時もぬかりない準備があるか？という事です。抜かりない準備とは



少しオーバーですが、運命とはなかなか見通せないものです。どのような変化があるのか多少は考えて、心の準備をしておくことは処世の方法として必要な事であると思います。額面どおりのやりかたや方法だけでは、おさまらないのが現実です。心の準備もしていない状態で急激な変化に合うと、平静でいられない人がとても多いです。

平安な状態にいる人も少し考えてみてくださいね。

逆に人生の模索期にいる人は、困難を不幸とだけで見るのではなくて・・・見方によっては悪い事もそうでないのではないか？、とか、目の前で続いている不幸は、もしかしたら自分に何かを教えてくれているのではないかと、一度考えてみてください。もしかしたら貴方の気付いていないメッセージがそこにあるのかも？しれないと考えてみてください。

さまざまな角度から考えてみると不幸はたんなる困難になる事があるのです。そうなれば道が見えてくるものです。

「悩み癖よしの勇気」

悩みを悩んでしまう人は「悩みの迷路」から抜け出せなくなっていることが多いです。そういった迷路から抜け出さなくては、いつまでも悩みの迷路の中でさまよってしまします。

悩みの迷路のさすら人、という言い方をすれば多少はカッコいいかも知れませんが、結局は悩みの中にいる奴隷のようなものです。

そうはいってもどうやって抜け出せばいいのかわかりませんよね。

ぬけだしたいと思ったら少しの覚悟が必要になってきます。たとえ話をしましょう。

アクション映画一度はみたことありますよね。

そんな映画の中で主人公が追い詰められて、ロープ一本で向こう岸に飛び移るシーンがよくありますね。

悩み癖より出るには3つの勇気が必要です。

1つ目は解決方法を探して手にする勇気。

2つ目はなやみにはまっている自分からの脱却の勇気

3つ目は解決実行の勇気

の3つが必要なのです。

どんなに悩んでいても他者は、都合のいい話をすることはありませんが結局は自分で自分の道を歩まなくてはなりません。

ごくたまに人の事を気にかけてくれる人がいますが、そういうった人はまれだと思います。

もしそのような人が身近にいたら大切にしておいてあげてください。

そのような人の持つておられる魂は、古くてたくさんの経験をしておられ、自然に大切なことを教えられずともわかっているのです。

人は一人で人生を歩きながらも、人として大切な学びをいつているのです。

その学びとは人に心が伝わらず困難な環境の中、人を理解して魂の出す光を心の正直清浄さを通して現実する事です。

困難な環境はすべてが悪いものではないです。

その環境の中、いかに宇宙の大いなる意思と自分の魂に正直でいられるかという現世の修行なのです。

そのために貴方にさまざまな困難がそびえたっているのです。

逆にいえば困難があるのは、「天」があなたに期待しているともいえるのではないでしょ

うか？
話はもとに戻りますが、ロープで向こう岸にわたる映画の主人公だったら追いかけてくる敵役がいますけれども、皆さんだったらそれは近所のおばちゃん・おじちゃんだったり、お子さんだったり、お父さんお母さんだったり知り合いとか上司とかノルマとか言うもの

ですよね。

映画の場合の追いかけてくる敵役は手に武器持っていて危険ですけど、まあ皆さんはそれは無いと思いますから安心してくださいね。

それからおそらくですけど、ロープで向こう岸に飛び越えようとしている映画の主人公って悲鳴あげてますよね。絶対に・・・

映画の主人公は絶叫みたい悲鳴あげてますけど、悩みの迷路からぬけるには勇気はいると思いますけど、映画の主人公ほどは危険は無いですから安心してください。

なせってね、地面の上だし武器持った敵が追いかけてくるわけではないのでね。貴方は貴方の中にいる敵と正しく向かい合う勇気を持てばよいのです。

勇気をだして悩みを直視していきましょう。勇気がないのは悪い事ではありません。過去の自分に勇気がない自己を許してください。小さな一歩かもしれない道でも一歩からといいます。

その内側に向かう勇気も、外に向かえば貴方にとって大きな収穫になるのです。

「なやみってどんな人たち？」

今まで二千七百人以上のかたとお話しさせていただきまして皆様の悩みなどを聞いてまいりました。

そのようにお勤めさせていただいておられますと、なんとなく悩みの構造がわかってきたようにおもいます。

それらを皆様にお話して悩んでおられることから抜け出す力となれば良いなとおもっております。

思い悩むかたちにも様々あると思うのですが、およそ共通の要点があるように観察いたしました。そちらをすぐにお話しする前に、少しイメージしてみただけませんか？

いまお持ちの悩みの要点を・・・詳しくは次ぎの話を覚えておいていただいて、それぞれ皆様ご自分自身と対話していただ

ければと思います。

皆様少し目をつむっていたいただきまして、頭の中で悩みの要点を考えてみてください。多くのの方は悩みがたくさんあると、おもわれておられる方が多いと思います。瞑目して少し頭の中を整理していただきましたが、いくつほどの要点があったでしょうか？。そうですね、今お持ちのなやみの要点を書き出してみてください。

おそらく100個は出てこないと思います。たくさんあると思っていることも冷静になつて考えてみると意外と解決の糸口が見つかるかも知れません。帰って書き出してみるだけでも二つのことがわかってくるのではな

いかと思います。一つ目は要点の把握と、二つ目は客観的に悩みと対話する機会が少なかつたという確認ができるはずですよ。

がっかりしないでください。今という認識ができたところからすべては始まるのですから・・・

今までの相談事でわかってきた悩みという物の構造要点を箇条書きで書き出してみましよう。

いくつかの出来事が重なっていて悩みの全体像がみえないという不安。我慢していけば解決すると思つて出口が見えなくなつている状態。

進む先が見えず決断できないというジレンマの積み重ねのストレス。自分の思いを誰もわかってくれないという幻想におちいつている場合。

人にも立場や理由があるという認識不足から来る誤解の繰り返し。多面的客観性の不足からくる現状把握の未熟。

過去の栄光という幻想から抜け出せず今を生きていない状態。その他の要因。

以上の八つの要点が今までお話しして考えさせられる事でした。これらの事を正面から向かい合えば、悩みは悩むものではなく取り組み解決していくもの

のだけという事がわかってくるとおもいます。次ぎからの小節でとりだしてみたいとおもいます。

いがいに思うかもしれないですけど、悪人になろうと思つて悪いことをしている人は、わりと少ないみたいなんです。ならないように道に行かなくてはいけないような雰囲気があつてその道をいかななくてはならないようになっていた場合はあるみたいなんです。ここで考えていただきたいのは、悪人の話ではなくて例えば貴方を悩ましている誰かさんについてです。

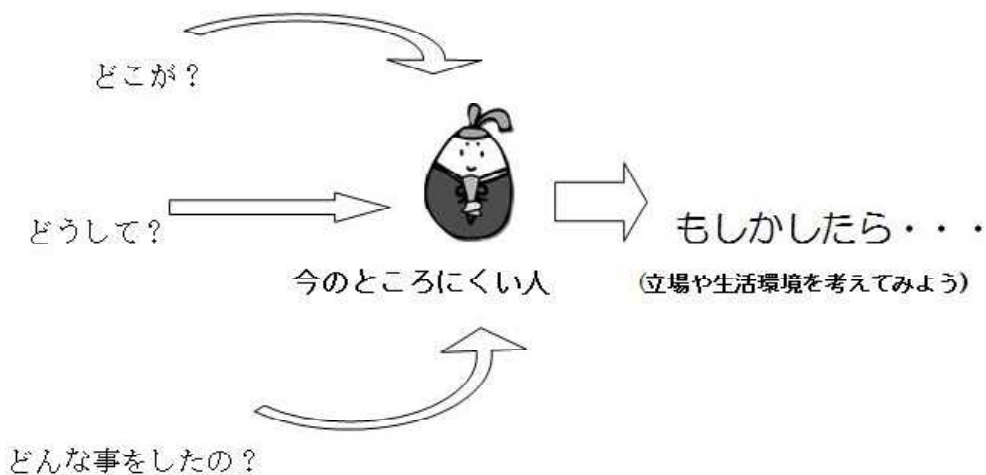
その誰かさんはとくべつ貴方に意地悪をするために何かをしているわけではないことが多いということを知っておいて下さい。よく観察してみると勘違いだったり、ちよつとした事だったり、そういったことが多いようです。もしくは生活環境の違いからくる、言葉の違和感もたらず場合もありますね。

色々な理由がありますが、そういった誤解が多いので一度冷静になつて思い返してみてください。一度勘違いをしてしまうと、なかなか思いを修正できないという愚かしい一面を人は持っているものです。この悪癖を繰り返さないようにしていくことが大切です。

それから立場によつてどうしてもやらなくてはいけないことや、避けて通れない事があるのです。ある立場にたつていて嫌なことでもやらなくてはいけない事があつて、そういった人をもしかしたら勘違いして憎んでいる人のケースもよくみられます。

これなんかは立場に立っている人は、ホントに踏んだり蹴ったりです。ホントお気の毒にといいたところ。さてさて・・・あなたに憎んでいる人がいる場合、少しでよいので冷静に考えてみてください。

その人のどんなところが憎いのでしょうか？
そして図のように考えてみてください。



どこが憎いのでしょうか？、どうして憎いのでしょうか？、どんな事をしたから憎いのでしょうか？考えてもたくさんは出てこないはずで、たいていの場合おなじことをグルグル考えている場合が多いようです。たくさんの悪いところが見つからなかったら、許してあげてもいいのではないのかな？と思うのです。憎むってどういうことなのでしょう？憎むとは相手に思いをとらえられている状態ともいえますね。憎んでとらわれているのは、貴方はとりこなのです。それはもう愛し合っている関係といつても過言で無いかも知れませんが、愛するということは、その反対に憎むという感情がいつもあります。愛と憎しみは「対」になつていて、一つだけを取り出して扱ふことはできないのです。一つの方角からでなく、いろいろな方角から考えてみましょう。もしかしたら憎しみとは、許しあうということを教える為の反面教師かもしれない。許しあうということを教える為の今、憎い相手がいる人・・・いつの日かその人を許せる日がくると良いですね。

個人差はあるのですけれども、人は一つか二つの難問なら普通にこなせる力はあると思います。ただし同時に二つのことを処理するのは、難しい場合が多いのではないのでしょうか？

たとえば何となくの不安があるその上に、短い期間に複数の問題が重なって混乱してしまうような場合。もともと怖がりの人が、過去の問題を終わらせずにいた時に次ぎの問題が重なってしまった時。

などを始めとして難問が重なることがあると思います。

不安に思い始めた最初の頃の情景を思い浮かべてください。

少し眼を閉じて思い出してください。

どのような情景でしたでしょうか？。心に留めておいて下さい。

次ぎに考えてみてください。貴方のお持ちの不安や悩みをいつまでも抱えたままにしておくのでしょうか？。いつまでも抱えたままにしておいて良いのでしょうか？。

いま手にとってこの本を読んで今ですね。そうです私の前に座っていること自体が、貴方の意志なのです。自己を改善しようとする意思なのです。

これはとても素晴らしいことであり勇気の結晶なのです。

勇気の結晶が風化してしまわないうちに、次ぎの手を実行に移すのが良いでしょう。

次ぎの手とは、メモを取ることです。メモを取り悩みのかたちを自分で知ることです。

このメモをとるのは、総てにいえることなので覚えておいてほしいのですが、なやみ解決法を探すにしろ、なんらかの目的でメモを取ったり研究したりするのは、自分のためにする事であつていわれたからするものではないのです。

なやみはあなた自身の問題であり、たとえ人が問題の種になつていたとしても悩んでい

るのはあなたです。その悩んでいる状態から抜け出そうとするのはもちろん自分のこと

すから、あなたの自由意志において実行してかまわないのです。

メモを取る目的は、いまの状態を把握することから初めていけばよく、いきなり答えを

求めようとするとうまくいきません。

私の聞いた相談の多くは、いきなり答えを求めようとして相手といさかきをおこして

まうケースが目立ったように思います。

またメモを取ったからといって必ず問題が解決するともいえません。

解決しないからといってやってもいないうちに、あきらめてしまう考え方が問題を深く

していつてしまう場合が多いのではないのでしょうか？。

成果を気にせず努力する、人が見ている見えないに関わらず。

このような気持ちを維持したなら、いつのまにか自分が変わっていつていっていると気付く

かもしれません。

わたしも修行時代、一人でこつこつと書き出しや、問題を把握する為にメモしていった

記憶があります。

そのなかで役立つ言葉は、自分の格言集にまとめて、わたしの本棚に格納されています。

さて実際のメモには・・・

今お持ちの悩みの要点や問題ごと、相手に言われたことや、こうして欲しいことなどを

書き出してみると悩みという心の中の把握ができてきます。

把握ができることやっていくことの順番が見えてくるのです。

ではなぜ書き出さなくてはならないのでしょうか？。

心も頭の中も今、座っておられると思いますが、この姿勢を維持するには見えない力

がいつも働いていることは皆さんご存知のはずです。

何だと思えますか？

生まれたときからあるものだからそれが当たり前になつて重力なのです。

しかし心の中や思考回路の中には一定方向に引っ張る力は働いていません。

働いていないものだから、例えて言うならば一杯のコップの水も蒸発して空気の中

にひろがり、とてつもない体積になつてしまうこともあるのです。

また一定の方向の重力が心の中で働いていないため、人との行き違いや、誤解が生じ

てしまうのです。

ですから一度書き出して客観的に自分の内面を調べてみる必要があるのです。

「我慢（つらばい）」

我慢していれば問題は解決すると思っておられる方は意外と多いかもしれません。我慢して無事に過ぎて行ってくれる物も多いと思います。すべてが通り過ぎるとはかぎりません。

通り過ぎてくれない問題はいつ訪れるかはわかりません。かといってぼつとしていてはそれが訪れた時とでもではないですが受け流すのに一苦労です。

ですからそれに対してどのようなものにも（即決断しなくてはならないことは別にして）二つの手法を考える癖をつけておきましょう。

論語という古典に書いてあるのですが「狡（こうと）兎（こうと）三窟（さんくつ）三窟（さんくつ）」といって「か
しこい兎は二つの穴倉を用意する」という格言が載っています。

この格言を現代に生かすと次ぎのようになるのです。

ウサギは皆さんご存知のように草食でおとなしい小動物です。

そのおとなしいウサギも自分の身を守るために逃げ足は速いです。

おそらくこの格言もウサギの性格と特徴を拡大したものでしょうが、泰平がすき

だからこそ、やり方や逃げ道などの手は三つは用意し身を守れという意味にとらえて現代に生かすのが無難でしょう。

そうです逃げ方を知らないウサギは鷹やイタチに捕らえられてしまいます。

問題のおきないうちに色々な手法が取れるように訓練しておくのです。

もしもいま受け流せない問題と対面しているならば、耐えて待つのではなく冷静にそ

の問題と向かい合ってください。

今のところその問題にあなたはどの程度対応できる力量を持っているのでしょうか？。

その問題の要点はどこででしょうか？

そして助言をだれに求めればよいのでしょうか？

少なくともこの程度は動けるはずですよ。

もしかしたら我慢していれば過ぎていく問題かも知れません。でも過ぎていかなないこともあるのです。

あなたは聞くことができ考える事ができ、話す口があります。

アドバイスしてもらえらる人があるならば素直に聞くべきでしょう。

特にアドバイスをしてくれる人の言葉が聴けなくなってしまうたら成功どころか問題

回避すら難しくなってしまうでしょう。

ユダヤの格言にこんな言葉があります。

「人間に口は一つなのに耳は二つある、それは自分が話す倍の事を聞く必要があるからだ。」

まさに格言の通りですね。

もしも貴方が危険が通り過ぎるのを待つだけの人ならば、すくなくともその危険の本

質をとらえるように努力することを奨めます。

我慢していれば通り過ぎていく困難もあるでしょう。

人生とはおおよそ困難の連続であり、いかにしてそれに立ち向かうか？ しかないように

も感じることはありません。

真実から眼をそむける事はできるでしょう。でもそれは生きていけるといえるのでしよ

うか？

困難を自分から背負い込む必要はないと思えますが、だからといって困難から眼をそ

むけ耳をふさぎ、見なかったフリをするのは何とも見えて心が寂しいです。

痛い事もあるでしょう、嬉しい事もあるでしょう、追い風を感じる事もあるでしょう

人生は。

なぜ困難に正しく眼を向けると良いのかといえますと、困難と立ち向かうと一つのこ

とをなしとげるのも、とても苦勞多いとわかってきます。

苦勞が多いと知っていけば、目標ができたとき努力を怠る事はありません。

苦勞が多いと知っていけば、目標に歩むとき忍耐を忘れる事はありません。

苦勞が多いと知っていけば、人の苦勞も理解できます。

苦勞が多いと知っていけば、人の大切さがわかります。

人はなやみから立ち直るだけが人生でなく、楽しい事を追いかけるばかりが人生ではなく、一つ一つの意味に意識を向け幅の広い体感を得ながら人生の歩を踏み出していくことではなかるうか？

感動や忍耐の希薄な人生は倦怠感を生み、倦怠感はやがて家庭という日常や、人生そのものを投げ出させてしまう場合がある。

ただ我慢していれば人生は良いというものではないようだ。

貴方の感覚を最大限に生かし、知恵をめぐらせて困難の前であがき人生の可能性をひろげてほしいとおもいます。

「誰もわかってくれない」

相談に来られる方で自分の思いを誰もわかってくれないといわれる方は案外多いように思います。

この話しを聞いてちよつと「ドキッ」とした貴方はしっかり読んでおいてくださいね。もしかしたらドキッとしなかつた人もですよ(笑)。

思い込みが強くて失敗してしまう人の要点を16個あげますのでどれほど該当しているか自分の心のうちで数えておいてください。

該当している数が多くても大丈夫です。今日読んですぐ気を付けていけばだれも気付くきませんから。

ではコメントしていきますね。

・自分と相手は同じ価値観や考え方だと思つて話をしてしまう事がある。

コメント (人と自分は違いがあつて当たり前ということから出發していけばよいでしょう。違った意見が出てきたら怒らずにまず相手の話を聞いてみてくださいね)

・自分のやりたい方向に無理やりに相手を向けさせようとするきらいがある。

コメント (何だか無理やりですね。自然なお付き合いが良いですね。古典にいいいます「親しき中にも礼儀あり」と、参考にしてみてくださいね)

・自分の時は常識や礼節に外れたことをやっても許してしまうが、相手が同じ事をした場合に許せない傾向がある。

コメント (相手も人だよ、どうして外してしまったのか聞いてみよう。全然ちがうお話しが聞けるかも知れないよ)

・相手からの束縛を嫌っているけれど、相手のことを自分の所有物のように思い込んでしまつていてかなり束縛している。

コメント (あなたが嫌いなことは、たいいの場合あいても嫌いだから多少のことはゆるしてあげないといけませんよ。もつとも愛は束縛しあうものかもしれません。頃合を考えてみようね)

・感情がまず先にきてしまい、なかなか相手と冷静に話ができない傾向がある。

コメント (こうでなければいけない等の思い込みが強いとなかなか冷静に聞けませんよ。お話しは話し合つて可能性を見つづけるものですから自分も相手も中性的な気持ちでお話しするように気を付けてね)

・物事の最中に冷静になれず、物事が終わってしまったって後悔することが多い。
コメント（後悔先に立たずと、いいますからどうして冷静になれないのか少し自分と対話してみると良いでしょうね。まずは自分の弱点を書き出してみてください。自分と対話することは貴方の可能性を広げることでもあるのですから。）

・一つのことを気になりだしたら、いてもたってもいられないことが多い。

コメント（一つのこと集中しすぎかもしれないね。一つの出来事は一つの物事で成り立っていき、多いのですよ。たいてい一つの出来事は二つ以上の因子で成り立ってできているという性質を知っておいてくださいね。負の方向で一つの事が気になり始めたら時間という要素を考えてみてね。相手の立場も考えてみると良いかもしれませんね）

・身近な人とも勝ち負けの気持ち先んじてしまい、一度負けたと思ったら物事を続けられない。

コメント（なんだか損な考え方ですねえ。人生勝ち負けの場面ばかりではないのですけど、小さな勝ち負けにこだわっていたら本当の勝負の時に負けてしまうことが多そうだね。おそらくだけど、人生には緩急が必要だと思うよ。身近な人と手を取り合って本当の勝負に専念できたら良いですね。）

・無意識のうちに相手を自分の意のままに動かそうという傾向がある。

コメント（これは本人なかなか気付けないかもしれないけど周囲の人が緊張した付き合いしか、してくれていないようだったら気を付けてみてね。多少は誰でも周囲の人に思い通りに動いて欲しいという願望はあるだろうからその辺りを注意してみてね。）

・自分のことを省みず相手に求める傾向があり、自分は怠けているのに相手の怠けている姿を許せなく厳しい態度をとってしまう。

コメント（相手を責めても相手も貴方が怠けていることはわかっていますよ。自分を責めるより自分の怠け心を見てあげてね。人はやって見せて、言ってみせて聞かせて、させてみるという行動の基本があるから参考にしてね。）

・いつも意識的に外に敵のような存在を作っていないと気が済まない傾向がある。

コメント（意識的に敵を作っていたらいつも落ち着かないよね。もしそういう傾向を自分で感じたら次ぎの事を考えてみて欲しいな。本当にその人は敵なんだろうか？と、思い込みということも多いし、もし敵だと思っていた人が敵でなかったら貴方にとって良いことだと思おうよ。）

・自分をわかって欲しい気持ちが強いけれど、きちんと言葉で相手にわかるように伝えられないことが多い。

コメント（まず相手はまったく自分を知らない人だと思ってみるといいよ。言葉で伝えるのは簡単なようで簡単ではなかったりします。それから相手も実は自分の人生をあがいでいるかもしれないし、後になんか貴方の言葉を聞けない状態にあるかも知れないと考えるみてね。後になんかあーだったとか、こーだったというような後悔におちいられないようにするためだよ。あと小説とか本を読んで伝え方や言葉を覚えるようにすると良いかも知れませんよ）

・人に対して頭を心から下げられない自分がいて思いを無理に通そうとしたり、一歩引いて譲るといふことが出来ない。

コメント（昔の人もずいぶんこの問題には頭をひねったのでしようね。実るほどに垂る稲穂かな、という言葉が残っていますね。もし自分の中に高みから人を見下ろすような気持ちがあつたら、次のように考えてみたら道でしようか？言葉で尊敬を集めることが大切なことではなく、目の前の問題を解決するために力を貸してもらおう事の方が有意義だと。実際に解決に向かって努力しているほうが良いと思いますよ。心の頭

そのお百姓さんの畑の中に一つの立派な切り株があった。普段はその切り株がちょうど良いので、休憩などの時に椅子代わりにしていました。そうした中のある日、何に追われていたのか知る由も無いがウサギが走ってきて切り

株にぶつかつた。

お百姓さんは何事かとおそるおそるウサギに近付いてみたが反応が無い。

ウサギは切り株にぶつかつた拍子にどうやら首の骨を折つて死んだらしい。

そこでこのお百姓さんは何を思ったか鍬を投げ出して次ぎに飛び込んでくるウサギを待った。待ったがいくら待つてもウサギは来ない。

どどのくらい待つたのだろうか？ そのお百姓さんは貧乏になつてしまつて、ウサギを待つていたというお話は村内どころか国中の笑いものになつてしまつた。

というお話しです。

もう一つご紹介いたします。昔々旅をしている侍が大河を船でわたつていました。なんの拍子か船が大きく揺らぎ侍の大切な刀を落としてしまいました。

その侍はあわてて船の端に印をつけて次のように言いました。

「ここから私の刀は落ちたのだ。」と、そうして船を止めるようにいつて船はとまりました。

そうして船の印をつけたところから水中に入って刀を探したけれども見つかりません。なぜなら落ちた地点より船は移動していたからです。

時の流れを無視していると見つけたいたいものも見つけられないし、同じところに留まつてしまふという教えのお話しでした。

この二つのお話の共通点はわかりましたか？ わからない人は帰つて考えてみてくださいね。

「進む先が見えない」

進む先が見えないというお話しを良く聞くのですが、これもどのような問題が重なつているかを、見極めれない状態の方がやはり多いように思います。

どのような問題があるか書き出していたくのはもちろんのことですが、次ぎの事を考えてみてください。

先へ進めないからといって、すぐに破滅が訪れるわけではないです。

今まで話した人の中で固まつている人は、どうもこんなイメージをしているのかな？ と、思つてしまいます。

ぶるぶる震えていると、どこからともなく襲い掛かつてくる怪物がいるようなイメージになつているのかな？

単に精神的に固まつていて、状態が変わらないだけなのだから、怪物が襲つてくるようなことは無いですから安心して解決方法を探していきましょう。

軽くコメントしましたが「自分はそうじゃない」と思ふかもしれないです。

でも考えてみてください。貴方と同じように悩んでいる人は多いのです。貴方だけが悩んでいるわけではありません。

貴方から見えて成功している様に見える人で、もたくさん悩んで考えておられると思いますよ。私がありがたいことに、色々な方面の方とお話しする機会をいただいて、経済的にも精神的にも成功しているラインに達している人なのに、やっぱり考え事はついてくる。

いや反対に成功している人だからこそ、くよくよしないように工夫している人が多いのです。たとえば社長さんが、くよくよしていたら会社はうまく回りませんよね。そういうものですよ。

進む先が見えないのは、どうしてだろう？。

例えば、なやみ・・・それは対人関係ですか？

例えば、なやみ・・・それは金銭関係ですか？

例えば、なやみ・・・自分の力量の問題ですか？

例えば、なやみ・・・恋愛関係ですか？

例えば、なやみ・・・仕事関係ですか？

他にもあるでしょう、でもそれは即解決しなければならぬものですか？

人生に困難はつきものです。いえ困難にひとかけらの幸せがくつついていっているといっても過言ではないかもしれませぬ。

ものごとは一つづつ手順をふんで、進めていかなければならぬ性質の物があります。また時として運命の歯車がかみ合っていない場合があります、どのように力を入れても、どのような知恵をまわしてみてもうまくいかないことがあるのです。

それは世間様とでも申しましょうか、有形でありながらその精神はつかみどころのない性質を有している場合が多いからです。

力をいれても知恵をまわしてもダメな時は、一体どうしたらよいのでしょうか？

笑い話に聞こえるかもしれませんが、そういう漠然としてつかみどころのない場面に立ち会ったときこそ占うのです。

そうして与えてくれるヒントに心をすまますのです。

多く・・・人力でどうにもならない出来事にぶつかるときがあるのです。

そういうとき視野の広い人は、頭で考えることをいったん停止して占いやおみくじといった精神世界の座標をたよるのです。

わたしのところにも判断がつかないと占いを求めて、経営者の方がいらっしやいます。

占いをおこなう私のほうがおどろいてしまいます。なぜかといいますとね、どうみても理数系や科学やシビアな判断力を持っておられる方々がですよ、答えのない占いを真剣に聞いて参考にされておられるのですから・・・

ですから私は時としてお聞きするのです。

どうして占いを御所望なのでしょうか？と。たいいていの経営者の方は答えられます。考えてもどうしようもない物が多くて占いのほうが的確にイメージできるからと。

そうです考えすぎも良くないようですよ。

・・・ここで言いたいのは安心して解決方法を探そうねって、こと（笑）それだけの時間はのこされている場合が多いですから・・・

「多面的客観性」

客観性という言葉を皆さんご存知のはずだとおもいますが、今一度ここで簡単にふれておきますね。

・・・ここであつかう客観性とは、自分をどのように観察するかという性格のもの。自分を観察する作業によって何度も繰り返し返す失敗の共通点を発見したり、観察眼を育てたりと、さまざまな要素をうみだす観察法です。

客観性という言葉には対になっている言葉がありまして、主観的という言葉があります。

主観という言葉は自分から見て感じることをさします。

反対に客観という言葉は他者からの立場で見た観察の方法をさします。

あえてここでこのような事を取り出してみたかといいますと、できているようで、できていない客観的な自己観察を取り上げてみようと思っただけからです。

過去にお話をした方々のなかで暗くなりそうな客観風主観論の方が割りと多かったですように思います。

この客観風主観論というのは、たとえば自分を客観的に観察しているような話し方をする方が、自己否定を言葉の中に多量に含ませ、また他者否定の要素を絡めつつほとんど崩壊していくような、黄昏のお話が展開することがあるのです。

自己不信・他者不信を生み出すような発想で物事をとらえていて本当に幸せを実感できるのでしょうか？

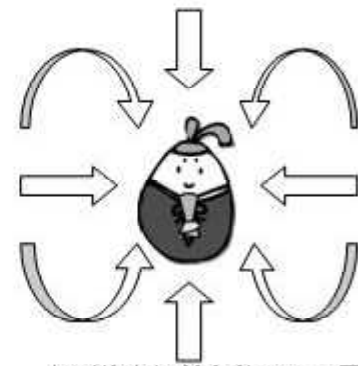
例えばこんな感じですよ。

何にもしていない人に向かって・・・（心の中で）おまえなんか悪いことしたやろーっていつも疑ってみていたり。何も悪いことしていないのに、自分なんかよくない人間なんやあーと、思っていたら人とうまくいくのかな？

わたくしが皆様にお伝えしたいのは、未来に進む為に「今」という状況を正しく知るための理解方法の一つであり、解釈方法です。

客観性を向上させるためにはいくつかのコツがあります。観察する時に評価をしないこと。

ただ事実がある、ということをとらえていくことが大切です。周囲にいる人たちの気持ちを予想すること。他者は自分をどのよう



多面的客観性を持つ人の図



主観的な人の図

決して崩壊していきような否定的な感情をいれないこと。以上のことに気を付けて問題の状況観察をしていってください。客観性を育ててよい理由は、自分だけが良いとか悪いという思考におちいりにくいこと。次に自分を多面的に理解する事によって、付き合いにくかった人とお付き合いできる可能性がひろがること。次に状況を多面的な方向から観察する力を育てること。他にもあるのですがそれらの力をつけていけるのです。最初からうまくできるわけではありません。うまくできないからこそ、人もうまくできない、つまりちゃんと客観性を獲得できていたなら他人にまねできないものを会得した事になるのです。状況をうまくとらえられる力は、多人数の中の貴方の存在を光らせ流れやすかつた意見をまとめやすくなることでしょう。もちろん多人数の中で光るには、創造的な思考が必要なのはいうまでもないのですが、かといって色々な側面が見えてきたら言葉にだしてみたくなるものです。成功や幸せに導くという心が客観性に加わったとき、伝え方が大一人のなやみを多面的に観察する作業からはじまり、おなじコツを使用して創造的な方面へ、人のために自分のためになる才能を

自分の心の中を種として、自分と向かい合うという時間を大地とし、自己との対話を才能に開花させてください。

この本を手取る人は、正直でうそのつけない人でしようから・・・正直者がしなやかに強く生きていくための力を身につけていくのです。

「相談者」のお話の風景

参考になりそうな実例を紹介させていただきます。

ある方の相談のケースより、このお話は実際にお話ししたことを元に、個人的なことがわからないようにし、極力わかりやすいように工夫して編集しています。

「周囲の人が見えなくなつて次ぎにどうしていいかわからない相談の方の場合」
状況 友人・親戚等と行き違いがありギクシャクしている。娘の事が良くわからなくなつてきている。御主人は仕事を休みがちで収入は不安定といった環境。ご主人に愛を感じなくなつてきている状態。主人は私の携帯電話や行き先によく電話してくる。
登場人物 相談の方 五十代主婦 陰陽師（良い呼び名がなかったので仮に）

相談の方 「私はつぎから次へと問題が起こつてどうしてこんなに不幸なのか自分を呪いたくありません。なぜ私はこんなに不幸なのでしょう。私が前世か何かで悪い事をした罰でしようか？」

陰陽師 「とても思いつめられておられますね。前世で悪いことをしたと思つておられるようですが、少し違ふと思えますよ。前世で悪いことをしたから悪いことが起こるわけではなく、あくまで前世での行いを正したいという貴方の魂が自分の気付きのために引き寄せることはあると思います。前世での良いことをした悪いことをしたという漠然とした

ものではなく、その人が頑固であれば、その部分を直すために壁として現象が現れるので「相談の方」。「えっ私、頑固なんですか？そのように思っていないのですけど、逆に人のいうことを聞くいい人だと思います。だけど不幸が続く理由がわかりません。教えてください。」

「あなただが頑固かどうかはわかりませんが、状況に応じて人は変化していき、相談の方」。「えっ私、頑固なんですか？そのように思っていないのですけど、逆に人のいうことを聞くいい人だと思います。だけど不幸が続く理由がわかりません。教えてください。」

「あなただが頑固かどうかはわかりませんが、状況に応じて人は変化していき、相談の方」。「えっ私、頑固なんですか？そのように思っていないのですけど、逆に人のいうことを聞くいい人だと思います。だけど不幸が続く理由がわかりません。教えてください。」

「あなただが頑固かどうかはわかりませんが、状況に応じて人は変化していき、相談の方」。「えっ私、頑固なんですか？そのように思っていないのですけど、逆に人のいうことを聞くいい人だと思います。だけど不幸が続く理由がわかりません。教えてください。」

「あなただが頑固かどうかはわかりませんが、状況に応じて人は変化していき、相談の方」。「えっ私、頑固なんですか？そのように思っていないのですけど、逆に人のいうことを聞くいい人だと思います。だけど不幸が続く理由がわかりません。教えてください。」

すから、そこを理解することです。相手はなにを伝えたがったのでしょう？。相手は何をあなたにして欲しかったのでしよう。言葉であれ行動であれそれをしていくことが大切ではないかと思えます。娘さんの件もこれに近いかもかもしれません。あなたが行動する前の注意としては、ひとつの件を一つとして考えて単純に物事を取り出して、どこが出来るのか、どこが出来ないかを考えないと出来ないことをずっと考えても出来ないままです。自分の思い過ぎしや思い込みを取り払えば出来ることが増えてきますから一つづつ解決していきましよう。」

相談の方 「自分を変えるのはなんだか悔しいです。人が変わって欲しい。」
陰陽師 「あなたの気持ちはわかりますが、いまはあなたの自分を変化させる勇気を試されていくのです。貴方の魂は自己変革の材料を用意し自分を変えようとしているので、いま大切なのは相手に合わせてあげる優しさかも知れません。相手に対して決めることかかっています。動きながら考えていけば、わたくしの場合よく光明が見えてくることありますよ。」

相談の方 「自分を変える勇氣と相手にあわせる優しさですか・・・。」
陰陽師 「もう少しいいますと、相手はあなたではないのですから心の中の全部はわかりませんよ。感情だけでは相手に伝わりません。あなたの心がまず、相手に伝わりないうことを前提におき、現象を正しくとらえて相手に伝えるようにしてください。そこがわかれば、他の方々にきちんと伝えれることが出来るでしょう。伝えるって難しいです。私も貴方に伝えるのにずいぶん苦勞しているのですよ。」

相談の方 「笑っておられます。」
陰陽師 「あなたがもう一度、最初にどうありたかったか、どうしたかったのかを思い出してみてください。そういう思いを思い出してみると良いと思います。およそ話はわかりましたね。わからないことがありましたらお答えしますがよろしいですか？」
相談の方 「ええ、話しはわかりました。またわからなかったら来させてください。今日と、以上のような相談の風景でした。」

はとでもためになりました。がんばって解決していきたいと思います。ありがとうございます。ございました。」

第四章 「行動できない？人の考察の章」

「相手に伝える工夫」

相手の人に伝えたい事があっても、なかなか言葉にならない事ってありますよね。こういうとき貴方はどのようにしていますか？
むりやりお話ししていますか？
難しいなと感じたら、すこし時間を置いて考えて見ましよう。

人に伝えるには推して押しておしまくるのが、うまいやり方とはいえないのです。ときとして自分のやり方を振り返ってみる時間はたいせつですね。
つぎに簡単に注意する8つのポイントをあげてみましょう。

- ① 何度と同じ事をしゃべっていませんか？
- ② なんでもない事に利益とか損とかという話を混ぜていませんか？
- ③ 伝えるという事を忘れて自分の話しをしていませんか？
- ④ 相手は何も知らないというところからお話していませんか？
- ⑤ 伝えていくのに勝ち取ろうという気持ちが出ませんか？
- ⑥ ゆっくりしゃべってもいいのに早口でしゃべっていませんか？
- ⑦ 相手を傷つけるような言葉を投げつけていませんか？
- ⑧ 整理してからお話しすることを忘れていませんか？



よく考えてみてください。貴方が何かしたいと思っても相手に伝える事ができなければ、何もできない事なのです。

いますぐ何かを始めようとするよりも、今までの自分を振り返ってどんな自分であったのかを知って、日常生活の中で意識的に悪い癖を注意して修正していく事はとても大切なことであり、チャンスを広げる事であると思います。

とつさの時には頭で用意している事は、実行できない事がほとんどです。日常生活している仕事や癖がモロに出てくるのが、何かしようとしている、そう、とつさの時ののです。

とつさのとき・・・とても緊張していると思うのですが、それを上手にこなすには日常の自分観察がものをいいます。

自分観察と日頃心得として注意していることが生きてくるのです。

日頃の心得は「いざ」という時の為のものなのです。

日頃にけだるい日常を過ごしている暇などないのです。もし貴方がよりよい創造的な人生を歩みたいのなら・・・

「なかなか行動できない人の特徴」

なかなか行動できない人の特徴をあげて、それぞれどのように考えたりしたら良いのかヒントを述べていきますね。

ここでお話しすることはたくさん相談の中で共通していたり、度々出てきたお話し的重要点をここにあげていきます。

まず先に要点を上げておきますとね、なかなか行動できない人は、およそ視野が狭くなっている人が多くて、悩み深い人と特徴が似ていることがあります。

ですからもし自分がそのような傾向があると感じたら自分を多面的に観察し、動きやすい発想に転換してあげる事が大切です。

次に13個の特徴とコメントを上げていきますので参考になさってください。

① 結果ばかりが気になって、途中が上手く考えられない。

コメント 「取らぬ狸の皮算用」といってとつてもいない狸の話ばかりしていたら上手くいかないのは、今も昔もかわりません。

結果を気にしすぎると、どのようにすれば良いのか、次ぎの一步が見えなくなることが多いです。結果を気にするよりも次ぎの一步をどのようにしていくかを考えてみましょう。それが一番の手でしょう。

② 結果にいたる途中どのようにしたら良いのかわからない。

コメント わからない時は一度立ち止まって何処ができないのか考えてみよう。今までのやり方が上手くいかないときがある。もしくは同じような事例があるのに調べずに闇雲に進もうとしているかもしれない。

同じように当たった事例を調べてみるのも良いだろう。

結果にいたる途中はどのようなかという順番があることを覚えておくこと。良い。その順番には核となる部分がある。それを発見できればあとは肉付けですね。肉付けは貴方の個性がものをいいますから、貴方らしさを出して生きましょう。

③ 簡単そうだから新たに挑戦してみたが難しく上手いかわない。

コメント 見ただけと、やってみるのではまったく違いますね。たいいてい玄人さんの手つきや、やっておられる仕事を見ていたら簡単そうに見えることがありますがね。あれは熟達しているから簡単にみえるのです。でも見た目とやってみると時差はまるで違います。新たに挑戦した物は自分の人生をかけて行うべきものならば、まず三年辛抱してみましよう。



上手くいかないう時こそ自分の新たな才能を開花させるチャンスかもしれない。自分ができないという大切な経験をしたわけですからそれを無駄にせずがんばってください。

④ **すべてが上手くいかないうからといって悲劇の人に自分をしてしまっている。**
コメント 今上手くいっていないからといって未来も上手くいかないうとは限りません。上手くいかないう時こそ自分の限界を知るときなのです。限界といっても技術的な問題と精神的な問題と分けて考えるのです。技術的なことができないからといって精神的に未熟というわけではありません。技術的に未熟であれば精神の力つまり根気とか忍耐という力を加味して技術的な面をカバーしてあげるのである。もう一ついえることは精神的に向上させるため「天」は貴方にその材料を与えているのかもしれない。今、嘆くよりどのようなようにすれば良いのか考え、できない事を潔く認めることが重要であると思えます。

⑤ **人と行動を共にして受け入れにくい出来事が多々あり、しかも同じような場面で起こる。**
コメント 人と行動を共にしていたら当たり前のように受け入れにくい事が出てくるものです。それが個性というものであつて違いなわけでは、どのように相手を理解すれば良いのか考えてみる事から始めれば良いと思います。それを考えてどうしようもない部分を相手に伝えてください。決してぶつける事無くですよ。そうすれば解決する事はたくさんできるはず。それが違ひがあるからこそ、ちがった場面を担当できて色々な局面に対応できるので、すから違ひがあることは良い事だとも考えられるはず。

⑥ **失敗するイメージが先に来てしまい勇気が出せない。**

コメント 苦勞性の氣質をお持ちなのですね。やってもいないうちに失敗のイメージを持つなんて先回りして失敗しているようなものですよ。
先のイメージが上手くいかないうとき昔の名将といわれる人たちは英断を持って計画を中止したという事例は事欠きません。
しかしし名将と貴方は状況が違ひなのです。昔の戦上手の名将は次ぎの一手どころか状況もはつきりしないような環境で一人で決断するのです。貴方の周りはそんなに刻一刻を争うような状況ではないはず。落ち着いて次ぎの一步の事と次ぎの一步どうするのか、だけを考えてそれに集中する事が「先回りの失敗のイメージ」から逃れる方法です。

古の先人も伝えてあります。「今という時に生きています」とそれこそ「中今」という発想なのです。今貴方は未来に在るわけではなく現在に生きています。未来の事は誰もわかりません。まず今をしつかりやっつけていきましよう。

⑦ **マンネリ感があり新鮮でなく、やる気がおきない。**
コメント 限界とは何だろ？ 限界の多くは物理的におこるのではなく精神的に起こる事が多い。もし物理的な問題が起こったとしてもその発端となるのはやはり精神的なことが大きい。マンネリ化があるのは平和な証拠であつてありがたいものなのです。

平凡な日常は貴方に忍耐という事を教えてくれます。それは同じ事を同じようにすることによって、精神的には同じ事も懸命に行うがマンネリ化の中にある貴方の魂の学びであるといえるでしょう。

おなじ事を同じようにしていても日々変わつていつて日常を感じてみてください。
小さな花だとして日々のうつろいの中にあるのですから・・・
「足元のお花に気づいていますか？」

⑧ **一生懸命やっているのに人が認めてくれなくてつらい**
コメント 一生懸命やっているのは誰の為にやっているの？ 一生懸命やるのは、まず自

分のためでなければ後で後悔がおきるよ。人は人として懸命に生きているんだよ。人の為といていながらやっていたら自分のためなのか人の為なのかわからなくなってしまうよ。認めてくれないという事があるならもしかしたら認めて欲しいという打算が見え隠れしているから相手の目に映らないのかも知れないよ。妙な甘えが自分の中にあると教えてくれているのだと思ってもう一度仕切りなおしてみよう。ちがった視点を獲得できますよ。

⑨ 小さな事にこだわってしまつて動けなくなる事がある。

コメント こだわる事は良いことだけど、貴方は何をするのか良く考えてこだわってくださいね。たいていの場合、目標とか目的になつていゝ事は何個かの作業が集まつて一つの仕事を完成させています。

一つの作業に没頭してしまふ事より、仕事全体の遂行にこだわりを持つと良いですよ。一つの作業ができないなら出来るところから始めてみればよいし、結局はやるのだけども他のものをこなしていゝる時に閑きが出てくるかもしれない。

もしも対人関係で小さな事にこだわりがあるのなら、その人の全体像を見てあげるように努力すれば良いと思ふのです。

そうすればその人の一面を許すきつかけになるかもしれない。小さな事にこだわるといゝ前にも一つの手にしようね。

⑩ 物やお金が無いと動けないと思つてゐる事が多い。

コメント 成功してゐる人が最初からお金や物にあふれていたのでしようか？ たいていの場合お金もなく物も無い。でも工夫とアイデアと度胸で成功してゐる人がいます。

無い無いと嘆く前に、今の手持ちで何が出来るのか考へて見ましよう。やりたい事があつて資金が足りないと思ふ前に代用できる事は無いか考へてみよう。

かの徳川家康は次ぎのような格言を残しておられます。「不足を常と思へば不足なし」と、十分な資金や物資に恵まれてゐる事などは稀だと思へば今の手持ちでやれるはずですよ。色々なやり方があります。柔軟に思案してみましよう。

⑪ 今こなししてゐる事がどうも上手くない感じがして効率が悪いと思ふ。

コメント 過去のやり方と同じ手法でこなそうとしてみまいませんか？

時はうつろい人の嗜好や時代的な志向も刻一刻と変化してゐます。変化してゐる中に貴方が過去の成功した手法を用いようとしても、それは過去成功した方法であつて、今通用するとは限らないのです。そのことを先ず頭において状況と自分の手法を照らし合わせて見ましよう。

人は同じ方法を取りたくなくなる癖が存在してゐます。それは楽をしたいというささやきなので。今は楽をするときでしようか？ こなすべき物があるなら墮落のささやきを乗り越えていましよう。

同じ仕事でも昨日と今日は違ふのです。日々新しく朝に太陽は生まれ、夕べに今日を振り返る。これがわたくしの心得です。

⑫ 周りから煙たがられる傾向があり人と上手く協力関係を築けない。

コメント もし周囲の人から煙たがられるようだつたら少し自分を注意して観察してみましよう。そして周囲の人を観察してみましよう。周囲の人は言葉だけでしようか？ 言うだけの事はこなししてゐませんか？

もし周囲の人が言うだけのことをこなししてゐるのなら、もしかしたら原因は貴方にあるかもしれない。

たとへば、周囲に対して反抗する気持ちがあつたり、さげすんで見てしまつていたり傲慢な気持ちで潜んでいれば人は敏感に感じ取つてしまふのです。変に卑屈になる必要もありませんが、謙虚さを忘れてはいけませんね。

魂の深いところに神様がおられます。昔はそれを「お天道様が見ている」といったもの

です。自分の心をよく見てあげましょう。天は貴方をいつも見ておられますよ。

13) あやまつたり許すという事も行動の一つです。

コメント じつは相談事で一番出てくる問題が、あやまつたり許せなくてそのときから動けなくなっているというお話が多いです。

一見簡単な「あやまること」「許す事」できているように出てきていないのが人という性なのでしよう。

この事は私も含め気を付けていかなければ停止の思いに捕らわれてしまう事でしょう。新たに歩み出す貴方の一步が軽やかに歩めると良いですね。

「相談事の風景①・人生が見えなくなった」

大切な時になかなか決断できず、人生を流してしまった人のケースを次ぎに紹介して行きたいと思えます。

相談に来られたこの方はお電話での第一声が「人生が見えなくなった」というものでした。見えなくなつたといつても、色々な場合があるだろうなと思いつつお話をしていた記憶があります。

相談の方 状況 52歳男性 漠然とした不安感、不安感からか人生が見えなくなった。自殺未遂をおこしたことがある。現在独身。

聞き手 適当な呼び名が無いので仮に「陰陽師」とでも呼ぶことと致します。

備忘として相談の方が自分をつかんでいないため紙に書き出すという作業を何度か使用しましたが、それらを相談者の言葉として表現する事といたします。また個人と断定できる部分を削除し方言などを標準語に近いかたちに直し構成を整理して、参考になるように工夫しわかりやすくしています。

相談の方 体調が悪く何をやってもうまくいかない。人生何の為にやっているのかわからなくなつて自殺したい気持ちがある。

陰陽師 なるほど人生が見えなくて苦しんでおられるのですね。ところで今お仕事とかどうされておられますか？

相談の方 造船関係です。船を組み立てる仕事で部品を持ってきて、部品が合わないときはガスで切断したりという仕事で外国人がたくさんいたりします。

陰陽師 色々な話を聞けそうですね。話しを最初にもどしますが、人生の意義や目的が見えなくなつておられるのですね。

相談の方 はいそうですね。

陰陽師 では今の貴方の長所や短所はどういった部分なのでしょう？自分でつかまれておられますか？それと人生って何というようなテーマの本か人の話を聞いた事はありますか？

相談の方 お金にルーズで衝動買いが多いです。それにおちつきがなく気が短いです。良い部分は手先が器用なことだと思えます。人生のテーマの関係だけど、本は無いです。そういつた話を聞いた事はあります。東京のある先生で前世のカルマをなくしたり罪を償つたりする為に生きていて、カルマを償い終わったら救いがある。という話で自分もそう思っています。

陰陽師 人生が見えなくなつたということにも大きく関係がありそうですね。

さまざまな考え方があるとは思うのですが、罪を償うために人生があるわけではなくて、

もし前世で罪を犯していたとしても、それと同じ事をしないために自らの魂が自分の反省の為にさまざまな経験を引き寄せているわけですよ。

それに宇宙すべての中に見えないけれども何かの意思があります。その意思はあらゆる意味で創造的でありつながらの摂理があります。それと同じ原理でうまれた人は、生命の摂理である生きる、老いる、病い、死・愛する、憎む、離れる、苦しむという時間という運行と運命という移り変わりという中で無理にそれに逆らう事をせず、それらの中で許される最大限の創造性を発揮し生み出しながらいたわりながら循環していく事です。

簡単に言うると自分の体力や人の縁というものを考慮したり大切にしたりという事が大切です。

相談の方 東京の先生のような人になりたいと思つた事はありますがなれないです。

陰陽師 その先生がどんな人であつたのかわかりませんが、あなたの人生は貴方だけのものです。貴方という人生の軌道に東京の先生という電車を走らせても軌道と車輪の幅はあうことはありませんよ。

貴方のお話を聞いていて思つた事があります、少し痛い話をしますが、許してくださいね。

あなたは未来の先に自分の理想があると考えて信じているのは苦しい状況で生きる気力を維持してくれるでしょう、しかしそれも行き過ぎはよくない事であると思います。

なぜならば未来とは「今」「今」「今」という連続があつてはじめて未来というものがあります。今を大切に生きること・・・つまり苦しい事から逃げずに、苦しい出来事は一体自分に何の為にありどのようなようにやっていけば乗り越える事ができるのか思案し実践していくのが重要であると思います。

未来ばかり見て足元の「今」がおろそかになつていのではないのでしょうか？ そう考えれば貴方の短所のお金にルーズで衝動買いが多くおちつきが無いという部分が説明できますよ。

相談の方 どういうことなのかもう少し詳しくきかせてください。

陰陽師 はいわかりました。未来、自動的に救われると思つている部分に問題があります。なぜなら救われるはずなのに何時までたつてもその救いが無い。いつまでたつても救いが無いから現実とのギャップができてジレンマに陥ります。

また救われるはずの自分を信じすぎていて、人生を流しているように生きやすくなると思ひます。なぜならば努力や忍耐をせずとも何時かすくいが来るといふ思考になるからです。

人生とは今という中に生きていることを「中今」と表現しますが、今を生きては、たいていの場合忍耐や努力、思案という物がいつももあるものだと思います。今という連続に未来がある以上、今をおろそかにする考え方に問題があるのではないかと思ひますよ。

相談の方 うくん・・・なるほど。言われてみればそうですね。でも人生が見えません。

陰陽師 少しお聞きしますが、お休みの日や開いた時間の時は何をされておられますか？。そしてお金はどのような事に使う事が多いですか？

相談の方 時間があればパチンコに行ったりします。ギャンブルが好きなのと物を買うのが好きで、派手に使う事が多いです。

陰陽師 なるほどありますがどうございます、失礼な言い方になるかもしれませんが、寂しさから逃れる為に一生懸命抵抗されておられるのですね。

でも真実の貴方はさみしい、しかしそれを受け入れられない貴方・・・貴方の魂は真実の貴方を正しく認識して欲しいのではないのでしょうか？

どんなにみじめであれ、自分に嘘をつき続ける人生よりよっぽど心に対して良いと思います。何故かといいますが、自分がみじめであると知っていれば努力したり忍耐する事ができるからです。自分を認めることで、今の自分を許し、努力していける力を持つ事ができると私は考えます。その考えの上に貴方のお持ちの「未来救われる」という言葉に一つ足して、努力していれば未来が開かれる」と心得ていけば、自分に対しての投資として知識を身につけたり自分を養う為に資金を投入します。そうなれば寂しさを紛らわせる為の浪費をしたり、人に對して派手に見せる必要もなくなってくるのではないのでしょうか？

お金は大切です。お金の使い道も二つあると聞いています。生きたお金と、死ぬお金と・・・上手に生かしていくことが重要です。

相談の方 なるほど自分は人生失敗していたのですね。

陰陽師 いえ失敗はしていません。貴方は理想と現実のギャップを肌身で感じなくてはいけない人生だたのではないのでしょうか？

もしあなたのような人生が失敗という経験があったとしても、経験を教訓に変えて同じ事を繰り返さなければ良いのです。

魂という観点から見た場合、つまり貴方は正しく魂の欲した経験をして、未来救われるという願いを信じる事の無意味さと今という中に生きている事を学ぶ事になったのではないのでしょうか？

代償は大きかったと思いますが、その経験から教訓を抽出してまいりましょう。

相談の方 なるほど・・・そうですね。失敗ではないのですね。よかった。

でもどうやれば経験を教訓に変えていくことができるのかわかりません。教えてください。

陰陽師 はいわかりました。理解していただけてとても嬉しいです。

まずは「かえりみて省く」という作業をしていくと良いでしょう。

かえりみて省くとは、まず日記のように、出来事・感じた事・相手の心の予測・どのよう動けばよかったのか、という順序にかいて自分と対話できるようにしていくと良いでしょう。

そこで重要な事は、書いていく時に自分にカツコウをつけない事です。

これはどういうことかと申しますと、腹が立っているのいい子ぶった書き方をしたり、なんでもないことを大げさに書いたりする事です。このあたりに注意して行けばよいでしょう。

またそれだけでは心もとないと思いますから、わたくしの書きました格言集の考和源典をプレゼントしますから参考にしながらかえりみて無駄を省いていってください。

そうして未来の救いを探して彷徨うのではなく、自分は一体どんな人間でどのような人になりたいのか歩いていってみてください。

わたしの経験から言いますと、自分が少しわかってきたらその分だけ違う道が見えてくることがありました。私はそれを信じて歩んでいっていますよ。

相談の方 かえりみて省くというその作業は何時するのですか？あそぶ時間が無くなるのではないですか？

陰陽師 あそぶ時間がなくなるほどそれに没頭しても意味は無いでしょう。あくまで自由意志で自分のためにやる。貴方の意志で行えばよいのです。

それに貴方の考え方でとても損をしていると感じるのは、お金を殺しているようなお金の使い方にあるのではないかと思えます。

そのようなところをかえりみていかなければ何時までも人生が見えてこないのではないのでしょうか？

自分の人生が納得できるようにするのも貴方の心次第、寂しさを紛らわせる遊びをし

て心が彷徨うのも貴方の心次第。
どちらを選ぶのかそれは貴方ですよ。

相談の方 とてもいい言葉ですけど、心に残りましたありがとうございます。がんばってみたいと思います。

陰陽師 しつかり聞いていただけで嬉しいですよ。最初はとても無気力な人に感じましたけど、まだ心に種火が残っていたのですね。その心を大切にしてください。
そして体力や人の縁を大切にしてください。もつとあなたが人生という道にたくさんの方岐する道があることを感じてください。それが希望につながる事をお祈りしております。

「相談事の風景②・うまくいかない」

相談の方の状況 ♪ 才女性 外に出て活動しているが、うまくいかないことがある。娘と息子も言う事を良く聞かない。主人と冷えた関係が続いている。遠距離で秘密の愛人がいる。

聞き手 適当な呼び名が無いので仮に「陰陽師」とでも呼ぶことと致します。

またその他の条件も前の「相談事の風景・人生が見えなくなった」と同じといたします。またこの相談の方は不倫をなさっています。話の本筋はあくまで人生がうまくいかないという話しですので、不倫についての善悪のお話ではありませんのでご理解ください。

相談の方 私は何をやっても思うように行かないことが多くどうしてうまくいかないかわからないので相談にやってきました。よろしくお願いします。

陰陽師 うまくいかないのは誰にでもあることですよ。ところで今はどのようなお仕事をなさっていますか？

相談の方 今は販売関係をしています。主人が店長で私はサポートで、雇っている人が2人ほどいて、そのほかネットワークビジネスを副業で持っています。その前の副業は健康食品関係で・・・

陰陽師 しつかり活動されておられるのですね。ところで貴方の様子では、ご主人のおられるお店より、外での活動が多いように感じますが・・・

相談の方 はいそうです。お店にいると何だか息苦しくて、主人も何だかべたべたしてきますしやりにくいのです。それに姑が妙な目線で私を見るんです。

陰陽師 なるほど、先ほどの話しから推測しますとお金に困って外で活動をされているといます。お金がある事は誰でもでしょうけど、なぜそんなにいるのですか？

相談の方 (少し考えられて)素振り)誰にも言わないでください、じつは遠くに愛し合っている年下の人がいるんです。そこまで行く旅費と自分の身の回りのことで・・・

陰陽師 なるほどですね。ネットワークビジネスなんかでもですが、三年くらいは頑張っていないと成果が出ないと聞いた事がありますよ。それまでは儲けと出費はどっこいどっこい、赤字が出る事が多いとネットワークビジネスをやっておられる相談に来られた方がおっしゃっていました。半年から一年くらいです。

相談の方 そうですね、あなたはお仕事を何年やっておられるのですか？

陰陽師 そうです。その期間でたくさん儲けるのは難しいのではないのでしょうか？

ネットワークビジネスにしろ普通の店舗経営にしろ、人とのやり取りですから信頼関係を築き上げるのに時間がかかると思いますよ。

相談の方 えっ？、あなたはご主人と一緒に独立して経営をされておられると思いませんか？

相談の方　　そう、いう独立ではなくて、主人から独立して一人暮らしをしたいですね。
陰陽師の方　　つまりできるだけ早く基盤を作って離婚して独立したいというわけですね。

相談の方　　愛する愛さない、別れる別かれたいは貴方の問題ですから立ち入りませんが、あ
陰陽師の方　　普通にお勤めするのはいやです。愛している人が医者でお金持ちだから・・・

相談の方　　なるほどそういった事情ですか・・・ですがこれを覚えておいて下さい。背伸びを
陰陽師の方　　お付き合いをしていると、いつか無理が出てくる事が多いですよ。それに背伸びをし
なくしてはいけません。貴方の何処をお付き合ひされておられる方は好かれておら
れるので、しつかり見ていかないと、いつの間にか判らなくなってしまう
あせらずよ。

おそらく天は、貴方に冷静になってよく見なさいという意味で、副業をうまく運べないよ
うに、たしなめておられるのかもしれないよ。

相談の方　　（しばらく考えて・・・）言われる事はわかりましたが、うまく副業がいかない
のは何故でしょうか？

陰陽師　　今までお話しをしてきて感じた事を含めてお話しいたしますね。
恐らくなのですが、一つのことをしてたら必ず自分の限界の壁に当たってその壁を乗り
越えるため、たいていの人が自分と格闘をして自分を制します。その制した人が一つの仕
事の次ぎの局面に進むのですが、貴方の前に現れた壁はあなた自身の、少し失礼なことを
言います、あせりや傲慢さ忍耐という感情と対峙しなくてははいけません。

一つのことをやりとげるのに、貴方の場合、別のところへ眼が行っていきすし利益を先に
考えておられるようです。利益を先に考えると人はそれを感じ取り、心を閉ざしてしま
います。
うまくいかないのは外に問題が先ずあるわけではなく、貴方の内側にあるのではないで
しょうか？

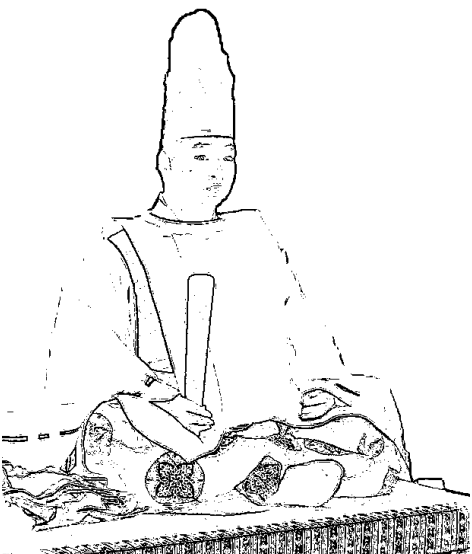
貴方は正しく人生の峠で試されているのです。
相談の方　　うん・・・考えさせられる事が多いです。

相談の方　　うん・・・考えさせられる事が多いです。
参考にして頑張ってみたいと思いますが、子供たちが私のいうことを聞かない事も関係あ
りますか？

陰陽師　　確実な事はわかりませんが、私がもし貴方の子供であつても、貴方が自信なく背
伸びをしてあせっておられる姿を見せられたら、何か感じるでしょうね。それで無くとも
子供は敏感ですから。

まずもう一度貴方の未来の姿を設計しなおして、自分にあつた形を模索してみてください。
それをおすすめします。

相談の方　　わかりました。もう一度考え直してみます。陰陽師さんのお話を聞いていたら
自分が焦っていたことが見えてきましたから・・・
きょうはお話ありがとうございました。



「運命とは自意識の角をとる川の流れ」

運命は峠ばかりなのか？と、ぼやきたくなることがあるはずだ。楽に人生歩けるならそれにおしたことはない。しかしうまくいかないものだ。

人はおそろしくあきらめの悪い生き物なのかもしれない。運勢がわるいという出来事を思考して体性を身につけ、乗り越えようとするのだから・・・。

どうしてうまくいかないの？考えなくても良いのに考えてしまう。

このような思考を持ったとき、消去法をもちいて思案してみよう。

うまくいかない原因は、自然環境であつたか？

うまくいかない原因は、宇宙人の妨害か(笑)？

うまくいかない原因は、政治のせいか？

うまくいかない原因は、と考えて該当しないものを消していけば、おそらく人との付き合ひの問題につきあたるだろう。

ではどういった特徴があるのだろうか？

人は自由意志があるから、統一された動きや規格化された判断はしない。

人は主観的な場合が多いので、新しい情報や動きに対して警戒する習性がある。

人は楽なほうに流れやすく、複雑より簡単なものを選びたがる習性がある。

人は集団の中にいるときに集団意識に流され、そこから抜け出る事が困難である。

人は目に見える脅威に対しては対応できるが、目に見えず忍び寄ってくる猛威に対して無力な事が多い。

いくつか端的に特徴をあげてみたが、このような人ごみの中で貴方は生きています。

この人ごみの環境から貴方が学び取るものは一体なんであろうか？

いくつかあるだろうけれど、ここではより人との付き合いをやわらかくする知恵を学ぶのが良いと思う。

人の世は、例えば一人が川の中の石だと連想すればよいかもしれない。

川の源流に近いせせらぎでは、ごつごつした石が川原と川底をおおっている。それら川の石たちは、雨が降り水量が増すと一端とどまっていた場所より転がり始める。

そうして石と石、水と石がぶつかりこすれ、摩擦しあつて下流に流れ着いた時には角が取れた石になつている。

母なる海にたどり着いたとき石はすでに源流の荒々しさより卒業している。

石と石、人と人、たがいに意思ある無いに関わらず、世の中、川の中の違いはあるけれども丸くなる修行をしているのかもしれない。

たまに・・・かなりかもしれないが、丸くなるのは負けと同じだと考える人がいる。

だれに負けたのだろうか？、特定の誰かではないはずだよ。

変えない勇気も良いものだ、変わる勇気も賞賛できるはずだ。

どちらでも良い、あなたが懸命に考えた末の決断なのだから・・・

胸をはって進もうよ。

「不幸な人は不幸な話ししか出ない」

占いや相談のおつとめを始めて、職業上からか人の特徴が見えることがあります。

楽しそうな人や、苦労性な人などさまざまですが、それぞれ特徴があるのでここに紹介し、人を見るうえでも、自分を振り返る上でも参考にしなければとおもいます。

楽しさを追いかけている人の特徴は、遊びの話と恋愛の話が多いです。ただ良く耳を済ませて聞いてみると・・・身近な人の愚痴の話が多かったり、狙っている異性と付き合っている人の悪口がでてきます。

この特徴の人は、ちよつとした困難にとまどって立ち止まってしまう場合が多いようです。そのはずみから人生の歯車が狂いはじめ・・・となる場合も多いと感じます。もし貴方がこの特徴を持つていると思うなら、少し苦手な事でも自分の出来る分野を広げて見る

のが良いように思います。哀愁に捕らわれている人の特徴は、過去の話が多くやたらと自分の意見を語りたがる癖があるようです。

この特徴の人は、さみしさが底辺にあると周りからは見えるのですが、自分は自覚してはいない場合が多いようです。また過去の話を出し始めると、おなじ話をぐるぐると周回してはじめてうんざりさせてしまう事があります。

一見人が良さそうに見えても、狭量な場合があるのでつつきやすく深く入れないかもしれないかもしれません。なぜかといえ「今」に視点がいないので時代錯誤の感覚を感じさせ、どうしても人が去っていきがちのようです。

もし貴方がこの特徴をもっていると感じたなら、自分の寂しさをみつけて、誰にでもあつことだと自分を納得させて、お話しするときに自分が今なにを話しているかを気を付けていくのが良いでしょう。

自分勝手な人の特徴は、早口で圧倒するようなしやべり方をして、自分が満足するまで話しをして、人の話を聞かない場合が多いようです。

注意して話を聞いてみると、狭い範囲の話が多くけつして広範囲で深い知識の話は出てきません。日常で勝手にしゃべって勝手に結論をつける癖がついているので、論議にしても仕事にしても恋愛や家の事についても、慎重な反撃や、突発的な出来事にとても弱く、それを境に人が変わったようになってしまふ場合があるようです。

もし自分にこの特徴を感じたならば、まずお話しの際のキャッチボールをしておたがいの意見をちゃんと交互に行き来できるよう何するところから始めると良いでしょう。

人の背中に隠れるような人の特徴は、いつも自分の意見をもたず意思と違っても人の意見に同調し味方のふりをしていい子ぶる場合が多いようです。

この特徴の人は自分に自信が無い場合が多く、いつも隠れ場所をさがしてさまよっています。いったん隠れ場所と思ったらとたんに行動的になる場合が多いですが、それを確保しただらとたんにもとに戻ります。

ですからこの特徴の人と付き合う人はよく足を引っ張られる事があります。

自己防衛を過剰なまで行う場合があり人から誤解を受けやすいです。もし自分にこの特徴を感じたならば、まず自分の感じたり考えている事をいえるように努力する事が大切です。お話はたがいに交換し合つて初めてお話しなのですから・・・

倦怠感にうずもれている人の特徴は、刹那的な遊びに走りやすく、急に思い出したように何かしはじめられる場合が多いです。

この特徴の人は、バックものに弱くすぐに成果が出る話に飛びつきやすいです。人との付き合いはめんどくさいで片付けてしまいがちなので、人の縁からチャンスを手に入れにくいようです。

この特徴を自分に感じたなら、刹那的な遊びに見切りをつけ、見栄を張ることの無意味さを考えて見ましよう。

真剣に考えているふりをする人の特徴は、いかにも深刻な話をする場合がありますが、状況に流されやすく本当に力をいれて努力しなくてはいけない箇所を知っているのに、なぜか見て見ぬフリをしてしまふ場合が多いようです。知っていてとりかからないわけですから、問題を解決できません。

もし自分にこの特徴を感じたならば、貴方の知っている問題にちゃんと取り組んでみてください。時間はかかるかもしれませんが、ほっておくより何倍も安心感があるとおもいますよ。

ほかにもたくさんの特徴の人がありますが、代表的な特徴をあげてみました。貴方の口癖をよくふりかえってみてください。不幸な人は不幸な話が、その人の口より話されている事実をかくにんしてみてください。たとえば感謝などの言葉が口に出てくる人は、運氣が良い場合があるようです。しかしその言葉ばかり連呼しても普通の会話の中で、言葉は違っててもその意思をあらわしている言葉を話せる人のほうが、内容はずつと奥深く人格的にも優れている場合が多いようです。

言葉は正しく使わなくてはなりません。時として社会人としての言葉を使わなければならない場面があるでしょう。しかし日常のお話して感じてもない言葉を連呼するのは、作為的であり利己的である

と感じます。

たとえよい言葉でも利己心が動いている言葉は、何か引つかかった感覚を残します。自分の言葉に酔ってはいいけません。発する言葉は心と合致しているか魂はいつもみています。これをお天道様と昔の人はいいます。自分の中の良心のことを指したのです。貴方の言葉は、素直でありますか？正直でありますか？清浄さはありますか？無理に運を引張ろうとする努力も時に必要でしょう。天は正直清浄で暖かい心の人を好む事もあるようですよ。

「運命の半分の責任は・・・」

運命の模索期にあるとき精神的に圧迫され、いつもは温かい家族すらも冷たい目線を投げかけてくるように感じる場合がある。

そんなときに出てくる新しい縁は、救いの神に見えることがありますよね。でもちよつと待ってくださいますか、いきなり出てくる幸運は疑いすぎても良くないけれども、かといって吟味もせずには乗るかかかっていくのは大変危険です。

これは経験則に近いですが、自分の運気が下がっているときには良い縁は回ってこないことが多いと感じます。

そのことを思案しましたら、運気が上がっているにしろ下がっているにしろ、そのつど運命は自分を試すのだなと思います。試して人間力をつけさせるわけです。魂が望むのはより完成された人格であったり、秘められた才能を開花させ世のため人のためになることであつたり、人と心を通わせ絆を深め合ったりする事などです。

運命の法則の章でもう少し詳しくお話しますが、人はただこの世にいる時だけが人生ではなく、今の貴方は永遠で一瞬の摩訶不思議な生命の法則のひとつコマという事です。運命は追い風もありますし、向かい風もあります。

この章節では向かい風にあるときに、参考として手元にあると良い知識をお話します。運気を向上させるには、上手くやって通るだけが回避する秘訣ではありません。後になればわかることでも、その渦中にある時は解らないものです。

上手くかわして通っていると肝心要のときに、何ていえばよいのでしょうか力量が足りず、どうしても乗り越えれない場面に遭遇するのです。

力量とは例えば、困難の渦中で身につく勘のようなものであつたり、人の心を洞察する力であつたり、人の心の波動と同調する力であつたりします。

何かで判断を求められたとき、いく通りかの方法を思い巡らせるはずですが、思い巡らせた判断の道の中で、できることならば（無謀でないのは言うまでもありません）

が）我が身を動かして事に当たり人の心を大切にすることを始めるのです。

一人の力はたいして大きくありません。でも一人から総ては始まるのです。貴方の心の中にある炎を他人に移すことができるでしょうか？

もしくは心の中にながりを結ぶ事ができるでしょうか？

人生の岐路に立ち決断した以上、もう後ろを振り返らず進むしかないのです。すすんで

貴方は公平であつたでしょうか？

貴方は口よりも耳を大切にしましたでしょうか？

貴方は指図と率先とどちらを優先しましたでしょうか？

貴方は責任を人に押し付けようとしなかつたか？

重要な決断をせまられ迷うばあひ、ひととき動から静へと活動をとめて次ぎのようにするのが良いでしょう。

全体をイメージして、イメージと体感が重なるくらいの想像力で先を思案するので、可能であれば人の息遣いや交わしている言葉の雰囲気、人の表情や場所などの想像も出来るようにしよう。



イメージをして
思案する総ての
能力を生かして

上手くやることも
大切だけどその場
面で自分を試せて
いるかい？

運命の半分は環境によるものだよ。生まれた場所とか縁とか思惑とか色々だね

運命の半分は自分の判断だよ。これを自覚しておかないと人間力が身につかないよ

「人生の可能性と決断の逆三角形」

人生とは何でしょう？

さまざまな表現の仕方があると思いますが、次ぎに取り出していききたいのは人生の上でたくさん分岐点があります。

人生の分岐点の時、その多くは意識せずに判断し決断を繰り返して、自分の運命が何処に向かおうとしているのか、わからないものも多くあると思います。

運命が何処に向かっているのか、誰もわからないでしょう。しかしどの運命を選ぶかは貴方の意志にかかっています。

自分の運命は自分で選べれるはずなのに、何故か運命の決断を投げ出してしまいう人が多いように相談事の中で感じました。

自分の意思で決断を投げ出して微笑むわけはありませぬ。運命は時として厳しいです。それを正面から向かわなくてはいけない事はたくさんあるのです。楽なほうばかり選ぶと、後々しんどい運命が廻ってくる事が多いようです。

楽な道を選ぶか、苦しい道を選ぶかどちらも正しいのですが、どちらを選べば自分のためになるのか、それを知るには過去の出来事を整理して理解しておく事が重要になってきます。

そして可能性を広げていくには色々な要素が関わっています。それらを図にして説明していきたいと思います。

逆三角形一つだけの図を見てくださいます。この図は一つの決断をして、可能性の広がり方を図にしたものです。

決断始点とは、小さな事からいえば、遊びに行く友達を選ぶという事も含まれるでしょうし、就職や転職などの面もそうですし、進んでいる人生の中の律儀さやいたわりの行動なども含まれるでしょう。もちろん結婚などもです。

こういった想像力は的確に未来を予測する手がかりにもなり、今を生きるには、過去が一つ死に今に生まれ変わるその連続が今というわけです。未来を予測し、しっかりと運命の自己責任を感じながら物事を進めていくが良いのです。昔は運命の自己責任を自覚している人を「塩気の効いた奴だ」といったふうです。決して突拍子もないことを言わず、困難に淡々と向かっていく姿はとても意地らしいものです。

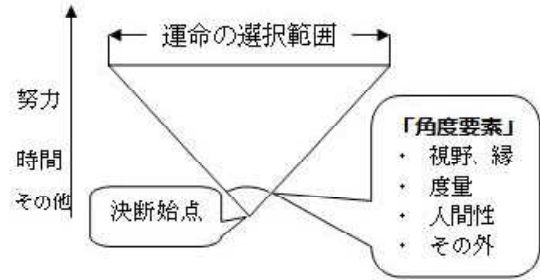
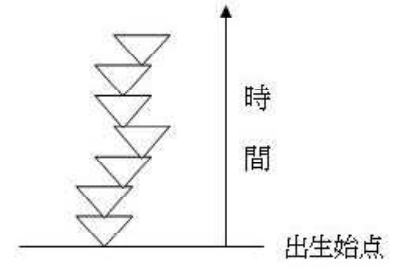
人生という運命の中で、半分は周囲の環境や人の思惑、なんでもないことが重なって出てくる場合や好意によって出てくるもの等があり、目の前に出てくる現象はさまざまです。そのさまたまの現象は運命の半分の責任であるでしょう。

しかし貴方がどのようを選ぶかが最重要であり、もちろん責任の半分は貴方の判断や決断だと心するべきです。

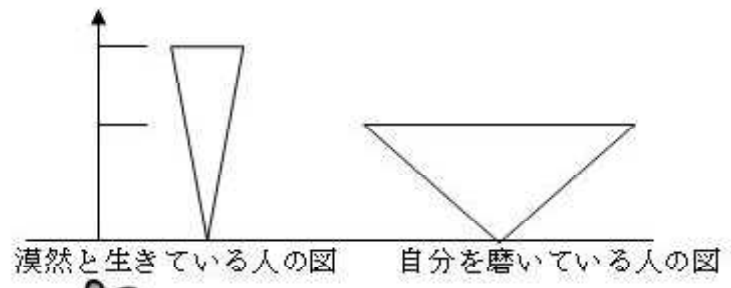
その自己責任の心得が貴方の観察眼を鋭くさせ、安心感を与えるものでしょう。

人徳といっても良いでしょうし人間力といってもかまいません。人はこのことも貴方の総合的な力を向上させる要素です。ですが、その勇気を持ち複数の能力や見識を磨いていく事が重要であり、その内的世界は思う以上に大きなものなのです。人にもそれがあろうのです。それを実感したとき、多くの生命を感じ

← どこへ向かうの? →



※選択範囲の概念図と判断や決断をくりかえしている図



漠然と生きている人と、自分を磨いたり努力している人ではおなじ時間でとても違いがあるよ。

・視野・縁・運氣などといった要素が関わり、あなたの人間性・度量などといった要素と掛け合わせり、運命の選択範囲が決定されます。一つの決断の始点から始まって、次ぎの決断までの間、決断の逆三角形は成長します。そうして次ぎに決断をするとき、運命の選択範囲の中で自由に決断できるのです。その連続した図が、逆三角形の連続して描かれている図です。

連続した逆三角形の図をみてください。出生始点とは貴方の魂が、だれを父母に選んで生まれてきたのかを示し、最初の決断の逆三角形を形成します。そうして決断を繰り返して、人生を歩んで生きていきます。目標や生き様を意識して生きている時ですが、とくに目標がなくて人生の時間を進めることができるのが人間に与えられた自由なのでしよう。どのよう生き、どこへ向かうとしているのか?、大切なのは何処にいくのかではなく、どの道をどのように通っていくのか?、ここに書きました図を懸命に覚えなくて良いですが、「ああなるほど」という程度に覚えておいて下さい。この図は、人生という連続した判断と決断という一面を取り出し、何となく覚えておくこと、なぜ人は自分を磨かなくてはいけないのか等といった抽象的な事柄が必要なかがわかってくると思います。

逆に人に良く好かれる人は、幅広の三角形になり、人に見えないところを努力していき、逆三角形の上部の幅は大きくなり、次ぎの分岐運命の時、この逆三角形の幅が広がると、人間性が増せば縁という力が増してきます。視野が広がると、やるべきことがあるのです。それらが増して人間性が増せば縁という力が増してきます。これらが増して人間性が増せば縁という力が増してきます。逆三角形の幅が大きくなり、以前の貴方より可能性が増していき、逆三角形の幅が広がると、人間性が増せば縁という力が増してきます。逆三角形の幅が大きくなり、以前の貴方より可能性が増していき、逆三角形の幅が広がると、人間性が増せば縁という力が増してきます。

このような決断の三角形が連続してあるのが、人生という運命の一部を取り出して図式化したものです。

自己努力や自己練磨が必要な理由はお分かりいただけましたでしょうか？

「オーラ（雰囲気）の美しやツラの秘訣」

少しだけお話しを内面世界に向けてみたいと思います。
みなさんオーラっていう言葉は聞いた事ありますか？

ある人、ない人ともに半々といったところでしょうか？

オーラというものはどんなものかというところ、身近な言葉で言えば雰囲気といっても良いでしょう。その外にも体調が悪い箇所などの発見に役立つ事もあるようです。神秘学や古武道・武術などでも取り扱われる事もあるようですし、古神道家なども詳しく知っておられる方も多いようです。

深いオーラの話ではなく皆さんに応用できる、雰囲気という範囲でオーラの話をしたしましょう。

なぜオーラの話を出したかといいますと、極論するとオーラとは雰囲気と理解してもよいかもしれません。

雰囲気やわらかかったり、美しかったりすると、どのような事がよいのでしょうか？相談でお話しして、わりあい良く聞くことなのですが、「あの人は何だかネチャネチャしている」とか「あの人は雰囲気キレイ」とかといったお話しを聞くことがあります。

これなども知らないうちにオーラを感じていて、判断基準の一つにしているのです。

人は眼に見えないからといって知らないわけではなく、眼に見えなくても認識している事は多いのです。

相談に来られる人の中で時折、経営に携わっている人や、クリエイティブなお仕事をしておられる方がいらっしやいます。

そのようなお仕事をしている人の多くは、素敵な方が多いです。

素敵な方々の出てくる話の中で、眼に見えないもの・・・つまり感覚で判断するよう

な部分をどのように、とらえたら良いのかという質問に出くわします。

クリエイティブな人たちは目でとらえられる部分を普通にこなし、感覚でしかつかめな

いたいという人は心に余裕をもっておられますし、お話しの際は広い方が多いですし、何と言っても気遣いがきめ細やかです。

そのような人が私はとても素敵に感じます。

素敵な人々とお話ししてつかんだお話しを皆様に紹介したいと思えます。

私が感じる素敵な人の特徴をあげてみますね・・・

- ① 気遣いが細やか
- ② 見識が広い
- ③ 常識的でありながら夢の心がある
- ④ 眼に見えない潜在的なものに理解がある
- ⑤ 努力をかかさな
- ⑥ 感情が豊かな人が多い
- ⑦ 人の立場に立って考える事ができる

およその様な事があげられると思います。

例えば、もっと素敵な自分になりたいと思っておられたなら、もちろん参考にしてくだ

さいね。そうでない方も自分が輝くことはとても良いことですから実践してみる事をお

奨めます。

オーラは心です。心の現われが微細な光の色となつて貴方の内側から発しているもの

それがオーラです。

怠けている人は怠けている色の灰色のオーラ

情熱あふれる人は熱気のこもった赤色のオーラ

優しい人は新緑色の中性的なオーラ

知性的な人は鮮やかな黄色のオーラ

素直な人は透明感のある清々しいオーラ

伝統的祭祀や知恵をお持ちの方は高貴な紫色のオーラ
それぞれの色があるのです。

さて素敵な人の特徴やオーラは心の色である事をあげてみましたが、漠然とした事を
習得するには、時間がかかってしまいました。

比較的すぐ実践できる事をとりだしてみましよう。

まず日常の自分をイメージしてみてください。
日常の仕事や家事や人付き合いで、どのような気持ちで事に当たっていたでしょうか？
オーラは心の色という事をよく念頭において日常の自分をかえりみてください。

誰かにいわれたからするとか、何となくやっている・・・とか無いですか？

人には貴方の心の奥の本心はわかりません。

ですが貴方の魂は一つの嘘も無く貴方の心を見えています。

魂は命のきらめきです。
魂の光は心というレンズを通して生きている事をオーラという見えない衣で存在証明を
訴えかけます。

オーラは生きている証であり、本心そのままに出てくる物差しなのです。
雰囲気はその人をあらわす嘘の無いものであり、オーラの色はそれをあらわします。

貴方の魂はあなたの事を良く知っています。
同じ仕事でも、言われたからするのと自分からするのでは貴方の心は大きな違いがある
の、は言うまでもありませんね。

懸命に自分と格闘する。自分の怠惰な心と格闘する工夫こそ純粋なオーラの獲得につな
がると思います。

また人が見えない部分もとても大切な要素です。
よい言葉が発する人のオーラはキレイな場合が多いですが、心がちゃんと乗っていないけ
れば、よい言葉も死んでしまいそれはウソとなってしまう。

感じてもないし思ってもいない心で、感謝の心や幸運を呼ぶような言葉を発すると、
言葉と心の隙間に「魔」がさしてオーラがとて濁ってしまう。

濁ったオーラは人を不快にさせる雰囲気をもたらし、人との仲を裂く見えない要素と
なります。

これはどういったことかといいますが、魂は正直に貴方の事を見えています。
貴方の心とおこないが一致しない事実を認識させるために、魂は自分を反省させる必要
から人が近付かないように周囲に働きかけるのです。

これには自分の力量以上に周囲に働きかけるのです。
同じような事がいえると思えます。

人の運命のしくみの一つは、魂が自分にふさわしい幸運をのせる器を用意します。その
器は自分を磨いたり、人徳を養ったりすることによって大きくなります。魂が自分の努力
を認めるからです。努力・忍耐・練磨のエネルギーが器を形成するのかもしれない。そ
の幸運の乗せれる器以上の幸運を無理やり乗せようとするとき無理が生じます。

その生じた無理は魂から見ればとても重いわけで、重いゆえに軽やかに運命は進みませ
ん。

進まない運命は人との出会いや、チャンスが遅らせる作用があります。

願っている大きさと、叶う現実の大きさはしだいに、ずれを生みあせりを発生させます。

あせりがあるとき、うまく物事が運ばない性質があるのは、皆さんもご存知のとおりで
す。

無理に幸運を呼び込もうとしたり、いかにもな形で善人ぶろうとしても、魂は真実の貴
方を知っています。

人が見えていない一人のとき人に見えない部分こそ、努力というエネルギーは貴方の内側
に深く浸透し小宇宙の充実が成されていくのです。

自分から行う心を持つ事、そうです一つの素敵なききっかけがいつも貴方を待っている
のです。

正直清浄をバロメーターにして精神的な財産を築いてください。

誰にもまねできない貴方だけの素敵な財産ですよ。

第六章 「運命の法則の章」 「運命とはおなじ状況が続かない性質を持つ」

運命の法則を知って何があるのだろうか？

うまく生きる知恵が見つかると思うのだろうか？

たしかにそれもあるでしょう。しかしもう少し奥深くの知恵があるのではないのか？と考えたりしたことはありませんか。

うまく立ち回る以上に、なにか迷いが取れたり考えがまとまったりそういった意味を持つていなかっただけなら、ずうつと昔に運命の法則を研究する人はいなくなっていたに違いない。

それだけ魅了する何かがあるのだ。「運命の法則」というものには……

運命の法則とは占星術や四柱推命だけのものでは決してありません。それよりももっとダイナミックなものと、考えてもらっても良いのではないかとおもいます。

すこし昔に時間をずらしてみようとおもいます。私の家にだいたい200年位前の出版された論語という本が(他にもありますよ)保存されています。

その当時は論語などの学びの書籍だけでなく、易経などの本も読んでいたようです。お武家などの家では特にです。

易経とは易という占いの古典で、それを補う繫辞伝上・下、説卦伝、文言伝、雑卦伝など十篇があります。

これらの本は確かに占いの本なのですが、眼や手で触れ得ない形而上学という立場の視野を養ってくれる知識として大切にしてきたようです。

これらの事を簡単にいいますと、人の社会をふくめた大きな自然環境の、周期的であり

ながら突発的な世界をとらえるのに役立つものだという事です。

そのような形の無いものを理解して、何をしようとしたのでしようか？

それは運命という本質を知り、運・不運という波に流される事の無い精神的に確立された人格を得て、妬みや恨みなどの感情から自由になるための知恵を得ようとした。

深く知るといふ努力は、感覚的に大きな意識とリンクする機会を得ることができる。それとの一体感、鮮明な知恵を我々人に与える。

その知恵で見た感覚は、例えば車の好きな人が、高級車が車庫に2・3台とまっっている家を見ればねたましく思うのが普通だろう、また付き合っていた人と別れたとき、すれ違

うカップルを見たら憎しみに近い感情が出てきたりするが、こういった感情から自由になれる場合がある。

そのときの感覚は、ただ車がある、ただ男と女が歩いているという感覚だ。

そこまですらなくともよい。しかしこれから何かと格差の多い時代になってくる。

そのとき貴方は妬みや嫉妬、憎しみを共にして人生を歩むのだろうか？

成功している人を見て妬むのだろうか？

幸せな人を見て嫉妬するのだろうか？

貴方が成功した人であれ、失敗した人であれ、お金持ちであれ貧乏であれ、関係は無く、持つているものが消えてなくなり、無くなつては得るような物理的なものに価値の中心を

置かず、今の時間であったり精神を大切に、自分ではどうにもならない出来事に振り回されない、心の自由さを手にしてほしいと思うのです。

どうか人との違いにふりまわされない貴方であってほしいと願います。

運命に影響与えているたくさんの要素があります。

宇宙という生命の運行であるとか、世界の経済の動きもあれば、人々の向かう先もあれば、眼に見えない世界の縁があつたりとさまざまです。

たとえば今日の相談でも質問のあつた前世のお話ですが、前世の影響もあるでしょう。

しかし宇宙の真実は多面的で複雑ですから前世も今も来世も同時に進んでいるのかもしれない。

前世のお話に戻れば、前世でおこなったことの償いという感覚でとらえるより、自分の魂が自分の心を修正する経験をしたいたがために自分で色々な出来事を引っ張ってきていると私は感じます。

魂や運命の本質は変動し中心に戻そうという力が働きます。魂は○の形と思っていただければよいでしょう。魂と肉体をつなげているヒモのようなものが仲介してあります。

▲前世で行いは魂が記憶してあります。例えば前世で争いごとなどの角ばった事をしたとします。▲のかたちは魂の○に程遠いですから、角をとる経験を自らに課して丸に近づけようとする習性があります。

その角をとるために痛い経験を引っ張ってくるのです。そうして魂と心がぴたりと一致する時まで生まれ変わりを繰り返すのです。

ですから人は(魂は)色々な経験を引き寄せようとします。先に愛する人との出会いと幸せが訪れます。そしてそれが頂点に達した時に別れが訪れます。

これは誰が悪いわけではなく、ただ別れがあるのです。努力すれば変えられる運命もあります。しかし変えられないものもあります。過去にあつた不幸はもしかしたら通るべきものだったのかもしれない。

反対のこともあるのです。例えば世の中に大きな役割がある人がいるとします。でも幼いうちからそれが果たされる力があるわけではありません。

ですから魂は運命の流れを冷たくしそして激しくする時が多いのです。冷たい運命の流れに鍛えられ、忍耐と努力に磨かれ成長したその人にやっと訪れる役割があるのです。運命とはさまざまです。今がよいからといって、ずっとよいわけではなく、たえず変化します。

貴方の運命はもつと深いものかもしれません。でも注意してください、今の幸せや不幸が永遠に続くことはない。……移り変わる物理世界の流れを通して、その奥にある運命の本質を見通す眼を養い人間力を向上させてみましょう。

「運命は太陽と気温の運行に相似象」

運氣の上昇下降は、そのきっかけがあつて少し後に現象は貴方の前に訪れる。



たくさんの方の失敗話を整理してみると、いいところまで行っているのに踏みとどまらなかった場合が多く、ホントにあと少しというところなのに・・・という話が多い。18世紀と19世紀のヨーロッパの偉人にナポレオン・ボナパルトという人がいる。その人の格言に「最後の五分を耐え抜いた者に勝利はある」といっている。

苦しい時は相手も苦しい。そのことを良く知って耐え抜く事も必要なだろう。運命は様々に変化するものである。その動きの運氣というものも腰が落ち着かず定まり無い。

困難とぶつかり知り合いが離れていくという出来事があつたとする。このとき貴方の決意とその動き方でその後が違ってくる。場合にもよるが、人の協力を受けない状況でも、誠意を持って事に当たった人と、もうだめだからと逃げ出してしまった人では、その後の運命は大きく変わるだろう。

困難や失敗の時は自分の心の白さが試されている場合があり、誠意を持って事に当たる試練とも言えるかもしれない。

また場合によっては策を弄さねばならない事もあるだろう。しかしどのような決断をして進むにしろ、成果が出るのはしばらくたってからだ。

成功続きでもその後を考えない動きは例えば、登りつめた山のように後は下山するしかない。

人生は一步前のことを見て歩むのではなく、数歩先をみてあゆむのが良い。やりたいことの計画を人は次から次へと考えていくものだ。

だが運氣の上昇下降の予測はしない人があまりに多い。冷静に今までの周囲の人との付き合い方を見直してみよう。

人の恨みがかつていっていると上手く運氣が上昇しない場合がある。

また個人的に誠意の無い冷たい人も、次第に運氣が下降してくるケースが多いようだ。これらは相談事から得られた経験則のようなものです。

どうも運氣とは温かい人や場所・人との関係に上昇する運氣の法則があるような気がしてならない。

温かい心は運氣という空気を上昇させる力にするのだろうか？

そのような事に注意しながら、変動していく運氣を考慮して、上手くいく場合も上手くいかない場合も共に考えておくのが良いだろう。

そのなかでどうしても、あきらめなくてはならない場合が出てくる。

ある程度予測しておけば、すんなり手放せ次ぎのステップへの立ち直りが早くなり結果的に良い場合もある。

運命の場面にはそれぞれ癖があり、それをどのように渡っていくのかそれを決めるのはあなた自身だ。

すべてのことは永遠に続かないという事を覚えておいてほしい。

悪い事も良い事も・・・。そう、たとえば最高点に太陽があっても気温は少し後の時間で最高温度になるように、運氣も最高だと思つていたりとき又は最低だと思つていたり時はすでに峠は過ぎているのであり、それを心得ておけばいざという時の判断の材料になるだろう。

「運命とは中心に戻る力が常に働く」

「宿命それは生まれる前に、天と約束したこと。運命は宿命に近付こうとする性質があり、運命とは命であり魂を運んでいる貴方という魂(みたま)様である。運命には常時宿命の力が無意識のうちに働きつつ、魂は必要な環境をたぐりよせながらも眼前の事象を判断し選び取るがその姿なり。」

人は自由に判断し生きる事が許されている。許されている中の一つの探すべきものがあるのではないだろうか？

その一つとは、もちろんおそらくではあるのだが、全ての人は宿命と運命の行く末を一致させるという、一人の人として生まれた意味としての宿題みたいなものがあるのではないだろうか？

その意味には内的要素と外的要素との二つがある。

運命と宿命の内的要素は、内なる小宇宙にむかうもの。内なる小宇宙とはつかみきれない自己、又は矛盾した自分を振り返り、自分で自分を知ること。または自分を知ろうとすることであり、自己のバランスをとる目的。

外的要素には、内的要素の成長がずいぶん関わりがあり内的要素の成長段階と見合う出会いが用意される。そこには愛する人だとか、仕事であるとか、社会に役立つ功績などもあるだろう。

たとえば成功の末に果たされる事績もあるだろうし、失敗の連続により自己を磨き続けたり着く場所もあるだろう。

失敗を恐れるのではなく、失敗は貴方を磨く材料なのだからもう一度立ち上がり歩むのです。

場合により失敗は違う方向へと向かいなさいという示唆かも知れず、新しく生まれ変わる貴方を運命は待っているのかもしれない。

選ぶ道が宿命と反対方向に向かう時、宿命は大きな力を発揮し貴方を引きとめようとする力が働きます。

その力は大きく貴方と関係している全ての人の無意識下に働きかけるようです。ただ宿命の力ばかりがあなたの人生を導いているわけではなく、鮮明に調整された貴方のバランス力が、行く先の羅針盤を少し変える力を発揮するようです。運命という荒波に悔いや恨みをたくさん、貴方という船に乗せているは無事の航海などできるはずもありません。できますなら自分を許し相手を許す心の大きさが運命を開くものかもしれません。

運命はままならないものとよく言われるようですが、貴方には自由意志があるのです。立ち止まらずたつて歩く事も自由なのです。運命の荒波に磨かれつつ歩んでいきましよう。互いに・・・

第七章 「学びとは何の章」

「学びは知識の獲得のみではない」

「社会の中で人は生きているのであり、今の世に生まれたにも意味がある。時代の変化を知り、みずからの生き様を探る作業は、魂の求める命題に近づくに等しい。変化する社会に己の学びを見つけ、千変する世の中で万化に耐える精神性を自己の魂という一つにおくが良い。一は最小にして最大の数字。分裂した個を数えるならば最小単位となる。大いなる一つと見たならば、一つは軽やかなるもの一つは沈みたるものに別れ、一つは二つを産む。興亡流転する人の世に、たしかかな道しるべはみずからの魂。無条件で汝を受け入れているのは天地のみである。」

いままで貴方がおこなって来た知識の収集はどのような種類があり重点がおかれていたのか調べてみよう。そこで貴方の書架（本棚）に整理されている本を眺めてみてどのような系統が多いか調べて次ぎの項目に書き込んでみよう。

雑誌	冊	漫画	冊
社会情報系	冊	精神系統	冊
道徳関係	冊	歴史関係	冊
文化関係	冊	物理化学	冊
エッセイ	冊	神道関係	冊
電子知識	冊	家庭知識	冊
その他（系）	冊	知識	冊
		系	

書き込むことができましたか？

過去の自分の確認をしてみると、時として思いもよらない発見をします。自分を知らないと多角的に試みるのがよく、そのなかで自分の弱点を発見するよう注意するとよいでしょう。自分の弱点と向き合うのは、確かに痛いものであり勇気のいるものですが、今後の自分を左右する一大事でもあるのです。

知識とは一体なんでしょう？ 知識とはできないことを削除する物差しとも、いえるのではないのでしょうか？

知識を覚えるだけですか？ 削除していくだけの学び方で、本当に良い知識と言えるのか疑問です。口伝といわれる体験を通じての授けの仕方があります。大変な事になるようです。

たとえば鑄物師の話ですが、五右衛門風呂（と書けばよいのでしょうか？）は現代の鑄物技術でも追い越せないほどの熱伝導率があったようですが、引き継げる人がいないために、大切な技術を喪失しつつあるそうです。（現在では伝えていない人もいませんか？）

技術にしてもそうですが、感覚で覚えなくてはできないものも多いのです。本を読むにしろ、どうしてこの本ができたのだろうかとか、その背景をイメージする事はとても大切です。

イメージしながら読むと、流して読む方法に比べてとても気力を消費しますが、実際には自分のためになっていくのです。

人から学ぶ事も、本を読むことも、ただ言われたとおりにしていたり、ただ読むだけでは貴方の能力を眠らせてしまう結果になるのです。

深い知恵には裏づけがあります。深い知識にはその背景があります。それらを知ろうとする意欲が、貴方の第六感や第七感といった感覚というものも総動員できるのです。

ただ単に覚えるではなく、体の感覚全てで学ぶことがとても大切なであり、今後の貴方の感じ方も広げていけるかもしれないのです。

感じる力が増せば、気付け幅が増えてきます。

人のよさも悪さも、可能性も発見できるようになるのです。さらりと軽いだけではどうしても上手い場合があるのです。学びとは感覚全てを育てるような工夫があると良いでしょう。

「まねびて学ぶ、思索しておこなう」

新しいものを生み出すには、過去の技術の積み重ねが必要でありそう簡単にはできるものではない。

絵画の世界もそうだろうし技術の世界もそうだろう。

絵を描くことを本業にしている人から聞いた話では、まず目指すのは完璧な模写をめざし、筆のタッチや色彩などを学ぶらしい。

完璧な模写ができれば、その技術はじぶんのものでありそれを繰返して新しい自分の作

風を作っていくと聞いた。

他の技術職でも同じ事がいえるだろう。

さて自分を作る学びについても、同じ事がいえるのではないだろうか？

最初から自分のみで新しいものを作ろうとするには、非常に無理があるのではないだろうか？

街をあるけば時折目に付くだけでも、奇抜な事が芸術や新しいものだ勘違いして

いるのではないかとおもわれる場合がある。

奇抜なものには確かに目を引くだろうが、それだけのようない気もする。

できれば心がひきつけられるような、あたらしい芸術と出会いたいとおもう。伝統的なもので例えていうと、室町時代末期頃の茶器などは素晴らしいものが多い。

なんていえばよいのだろうか？ 命がここにあるよと、いった存在感だ。時代がたっても、見る人が違っても本物は本物。時間を通り越して生きながらえるすばらしい生命力。

かくありたいものです。

自分をつくる・・・一体どんな要点があるのだろうか？

度会家行・吉田兼俱・増穂残口などの先人の書を読み頭の下がるばかりであり、伊藤仁斎・山鹿素行・中江藤樹など江戸期の学者の本をよんで素晴らしいと思う。

まだほかにもたくさん素晴らしいと思う先人は多いけれども、参考にすべき人は多いと思う。いや多いだけではないだろう。

できるなら（自分の感覚や能力が追いつければ）自分がお手本にしたいなと思う人の考

え方を、体を通すような感覚で一度とおして見るのが良いかもしれない。

通してみれば良くわかるのだけれども、その人自身には絶対になれないことがわかる。

なれないのだけれども、考え方の違いがわかり自分を確認する事ができる。

その頭の中の微妙な差が自分という器をはかる尺度になる。つぎは頭の尺度を持つと、自分の小宇宙のかたちがおぼろげながら解ってくる。

つぎはその違いを自分で理解できるかたちに、置き換えて把握するのが良い。

そうして出来上がってくる姿が、あなたの仮のかたちでありスタイルがわかってくるのです。

日本古来の方法を内面世界の微妙な部分に光を当てて説明したが、読み書きそろばんとは良くしたもので、有無を言わず先人の知恵を体に通し、先人との違いを体感し、自分を理解させる方法でもあるようだ。

一見遠回りの道が実は一番の近道であることは多い。
人の考え方で自分を満たしても、決して魂はそれに染まらず自分であり続けるのだ。
勇気を持って挑戦してみよう。

スタディーはスタンダードから始まっているのではないだろうか？

学ぶの意味はスタディーではなく、まねるであるところから始まる。

まねるのがかつこ悪いという考え方は、自分を謙虚にできにくくする。

なぜならば素晴らしいと認めれるのは、自分の力量の限界を知る者であり、素晴らしいものを取り入れていく意識こそが、真に賞賛される心得ではなからうか？

偽物を作るのは自己の研鑽を無視したものでありすべきでない。

自分をつくる材料として、先人の知恵を体に通す事はけっして恥ずかしい事ではなく、偽物を作るのとは大違いであるといえる。

人類自体が、先祖の遺産と知恵という基礎の上に立っているのであることを忘れていけない。

先人の業績を心して、自己の磨きをなしていこう。
遺産を受け継ぎさらに発展する意思と共に・・・。

「心の大地の創造」

人生は考えているより長く、そして短い。

心が感情の起伏と共にころころと上昇下降、熱しやすくさめやすい状態をくりかえしていて、人生を意義あるものにできるのかはなはだ疑問だ。

映画や物語では登場人物の個性を持たせるため、はっきりした感情表現が必要になる。ただし映画なら2時間という中でキャラクターを認識させ、物語をわかりやすく進めなくてはならないための特殊な表現方法であって決してまねをすべきではない。

なぜならば映画の中の世界はお約束の世界であり、たいいていの物語では主人公は登場人物と仲違いしてもよりを戻せるが、現実には仲直りできない場合も多い。

もしも絶対成功する人生で、数日だけの活動でその後の人生がすべてバラ色ならば自分を磨く必要など無い。

現実には成功もあり成功の倍の困難と失敗がついてくるのだ。

その時間の中で成功しても次ぎの変動を心して奢らず、困難とぶつかっても目をそむけず、失敗に出会ってもあきらめない人間性が必要なのではないだろうか？

感情が起伏し波立っても、そのつど帰るべき心の大地、または上下左右なき宇宙空間のような心の空間に北極星のように不動の座標になるような目印が必要であると思う。

人生を歩んでいけば「成功が1」に対し「失敗が2」そして「困難が3」の割合と心していれば、いつも立ち戻る心の大地が必要になるのは力説する必要もあるまい。

成功より失敗や困難が多いならば、成功に比重を置くことなく、心得を失敗や困難においておいた方が現実的だからだ。

この世の中は今だ精神的に発展段階にあり、人が安心して協力し人生を楽しむ段階まで達していない以上、助けはほとんど無いと考えておいたほうが良い。また失敗や困難にくじけないような精神力を備えていけばさらによいだろう。

心の大地を創造するには、「自分を知り」「自分を作り」「自分はおかしくありたい」と思う自分を自分で決める事。自分で決め磨き続けると心の底に水鏡のような自分の標準があらわれる。

もちろんイメージ力や感覚等といったセンスが、ある程度必要なのは言うまでも無いが道標なき人生に・・・貴方の心にも立ち返る大切な場所が、創造できますように挑戦してみてください。

「外に動けぬなら内に・・・」

だれにでも外に向かって動けない時があります。

その時期を人生の停滞期として考えるのか、次ぎの人生のページの準備期として考えるのかでまったく違うものになるのはいうまでもありませんね。

停滞期としてとらえたなら、それは動かない休眠であり完全な停止です。

逆に準備期として捉えたなら、それは次ぎの歩みをもたらす道を探る期間という事になります。

みなさんも一度は耳にした事があると思いますが、準備期としてとらえる言葉が、昔からあるのでご紹介します。

「捲土重来」といいますが出典は、唐代の詩人であります杜牧という人の詩にあります。

「勝敗は兵家も期すべからず、

辱を包み辱を忍ぶはこれ男兒

江東の子弟 俊才多し

捲土重来今だ知るべからず」

というものの中にあります。

この詩は私の好きな詩の一つですが、現代のひとにわかりやすく言葉を変えれば

「勝敗は専門家すらもわかるようなものではありません。負けたからといって辱ではなく、

辱の気持ち胸に収め、一時の辱を忍ぶは勇氣ある人です。故郷の人たちは才能ある人が多

い、土煙を上げてまた再起を図ることも夢ではありません」

というものです。

このような詩が残るのはもちろん詩自体の素晴らしきもあるのですが、それを支持した

人たちがいるという事を忘れてはいけません。

つまり勝者のみを称えるのではなく、例え負けてもどのような出処進退をしたのか、ど

のようにして再起を図ったのか、そうして苦勞の末に達成したのかが人生の中で重要な「鍵」になっているのだと思います。

もう一つ実例を挙げて見ましょう。

年末になればたいがい放送されています「忠臣蔵」のお話です。

四十七士が主家の再興を願い奮闘し望みを立たれ、主家の無念を晴らすという一念で、

恥辱に耐えて念願を果たす物語ですが、これなども負けた側の物語です。

でもその負けた側の物語なのに心を打つものがあります。

事の起りの吉良上野介と浅野匠守の殿中での話で、吉良の土地の人の話は吉良上野介

の悪い話しを伝えていないので、おそらく浅野匠守の若さと血氣がもたらした悲劇だった

のでしょう。

この物語の美談とされている大石蔵之介を始めとして辱を胸に仕舞い、辱に耐えている

姿が、日常生活の苦勞に耐えている人々の心に訴えかける姿があるのでしよう。

だれでも成功したいはずですが、でも現実はその行かないことが多い。

でも諦めてはいけないという応援のような物語が「忠臣蔵」となっているとおもいます。

さてこのような二つの話のを出して何を言いたかったのかといえますと、負けや失敗

を恥じる必要は無く、つぎの為の心を無くさず準備をしていく事が重要であるといいたい

のです。

さあ準備に取り掛かろうとしても、闇雲に準備したのでは勞力の無駄遣いです。

ですからどのような展開がしたいのか、またどうして失敗したのかを調査する事も大切

です。

相談をよくお聞きする失敗する時の特徴なのですが、考える視野がとても狭くなってい

たり、自分を磨くという思想が無く人と無駄に争いごとをしまっていたり、過去をか

えりみることが無く同じつまづきをしてしまっている事などがあります。

教訓とはおよそ失敗から学び取るものですから、これらから学び取らなくてはなりません。

ではどのようにすれば良いのでしょうか？

「実行の円環」

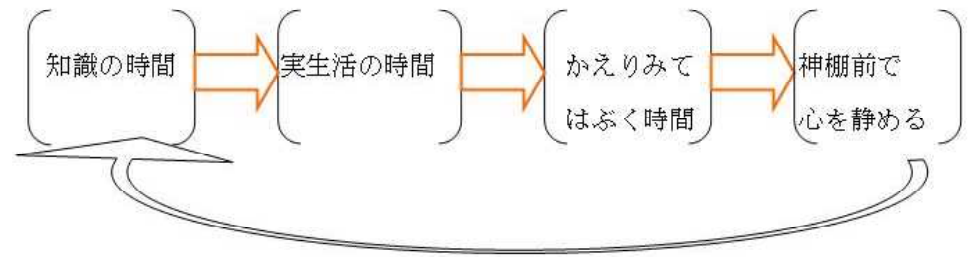


私も体験した事なのですが、自分を培っていくと実行の円環が連続して螺旋のように、できることが次第に大きくなり視野が広がってきます。成長の螺旋がひろがり渦が大きくなると、実行の円環も大きくなり停滞時期をこのようにして準備の時期になして行ってみてください。

です。視野もすっかり予想して思案して行つて下さい。自分を培い視野が広がると貴方の心の中で想像できる大地が広がって生きていきます。螺旋の第一の円環は図のようになります。かんがえてよいでしょう。

自分を培う事によって視野が広がっていきます。周囲を言い負かす事や策略の培うといつても一つ気をつけなければならぬことは、周囲を言い負かす事や策略の「人を呪わば穴二つ」と言う言葉があるように、人を蹴落とす思想は人との争いごとを招いてしまいます。幸せとはおそろくですが、人を恐れる必要が無く、人を信頼できる環境なのではないでしょうか？

たことや、ある出来事をどのような気持ちで自分は見ていたのかを書き出していくなどの自分との対話の時間を持つ事です。ことわざの中に「男子三日あわざれば克目してみよ」という言葉が残っていますが、まさにかえりみてはぶくという誰にも見えず誰にも知られず、ひっそりと自分と対話していく事の意味は自分を培っていくという事にほかなりません。現代の風潮として自分を培うことを軽視しがちですが、重要な事であると私は実感しています。



外に向かえない時は内側を整理して心を固めるといふ時間が必要になってきます。そこで三つの人生場面を考えていけばよいのです。知識の時間とは字のごとく、どんな道があるのか、どういったやり方があるのか、どのような考え方があるのかという事を知るための時間を自分にプレゼントします。この知識の時間で必要な事は「信じすぎず・疑いすぎず・知識として見る」ということです。つぎに実生活の時間ですが、これは日常貴方がしている生活全般の時間です。家庭での時間、仕事の時間、遊びの時間という色々な場面があると思います。貴方が良いと思ったことを体験していけばよいのです。知識の時間で得たものと、実生活での体験はそのままであつたら、うまく融合する事はできません。そこで重要になってくるのが、かえりみて省くという時間です。知識の時間で得たものは貴方にあつているものばかりではありません。かといつて工夫も無く実生活をなしていくのは創造的ではありません。創造性をなくしていくことを老いる」といっても過言ではないかと思うのですが、代わり映えのしないような実生活の裏に、たくさんのヒントが眠っていないでしょうか。次ぎの人生のページへ進む「鍵」かえりみてはぶくとは一人の時間を持つて思案していく作業です。たとえば得た知識の中で活用できそうな言葉や情報を抜き出していったり、今日一日をふりかえつて腹の立った事、誤解を生じてすれ違いをし

い。
重要な事は貴方の変化と成長と気持ちを折らない事です。
そして自分の良くない部分を認め、修正し、自らの過去を許す事です。
それを伝統的な言葉で「水に流す」といいます。
我々は先祖の知恵をもう一度振り返り、色眼鏡無く判断し身につけていく事がこれからの時代を歩んでいく人にとって最重要であると私は思います。

「状況の整理」

なかなか行動できないという人は、心の問題と状況の把握の仕方が共に上手くいっていないことが多いようです。

次ぎの話しは状況の整理ということを簡単にお話しいたしましょう。

状況の整理は大まかに分けて二種類あると思われます。

「過去をかえりみて自分の癖を見つけ修正する方法」と
「今の状況を把握し整理をして判断の参考にする方法」です。

この二つの方法を実践した方の多くは、漠然とした不安が薄れたとか克服できた等のお話しを聞きますので、使いこなせればそれなりに期待できるのではないかと思います。

過去を省みる方法を「自己行動診断法」と名づけています。

名前のとおり自分の行動を診断するという事です。

過去の出来事をもう一度とりだし整理しておく事がどうして必要なのでしょうか？

みなさんは「省」というこの字をご存知のほうか？

a…しよう という読み方

b…かえりみる という読み方

c…はぶく という読み方

この字の読み方は三つあり特にこの度重要な意味が二つあります。

それは「かえりみる」と「はぶく」です。

かえりみるとは、振り返るに近い意味で、「振り返って考える」というほどの意味になると思います。

もうひとつのはぶくとは、無駄を省くという熟語などで使われるとおろ無駄を取り除くというほどの意味になります。

例えば国の国土交通省などに使われている省庁の「省」の字ですが、もともとは・・・恐らくですが「かえりみて無駄をはぶく」という願いをこめてつけられたのではないのでしょうか？

個人的なレベルで言いましても、二度三度と同じ失敗を繰り返してしまふ人はだんだんと深みにはまって行って出れなくなってしまう事があるでしょう。

過去を振り返って同じ失敗を繰り返さないようにする事はとても大切です。

過去を振り返って自分のクセを知るといふことをすれば、同じルートで失敗する危険を回避できるのです。

回避できる事を回避するのは、人として当然の努力ではないかと思えます。

相談に来られる方の多くは、嘆くばかりで自己行動の「省みてはぶく」をどうも軽視しておられるのではないかと疑ってしまいたくなります。

人生ってやつぱり厳しい、でも人生の意味を真正面にとらえていけば、生きていく意味がわかってくるでしょうし、意味を納得できれば物事に動じないような心も養われるでしょう。

「自分を養う」とは、御飯をたべたり洗濯したり掃除をしたり旅行にいったりという日常茶飯をするだけでなく、精神を養うことも重要である事を知ってください。

別段むずかしい本や理論を覚える事ではなく、身近な体験と共に真理はあるのです。

貴方の体験を突拍子も無い考え方に仕上げていくのではなく、人の道という常にあるものを心得として人として当然の生き方を努力する事こそ大切であると思えます。

また「人の道」という堅苦しいものでなくとも良いのです。

貴方の真実を見つければよいのですから、単純に「あなた自身の出処進退のあり方」と考えても良いのです。

貴方の体験に難しいことを考えて当てはめる必要はないのです。

難しい理屈を当てはめなくても真理の中に貴方は生きています。

「自分の生き方を自分で理解していく事こそ貴方の宝物」なのです。

それを発見していくには自分の過去や体験、観察のあり方を取り出して試みる事が実践的です。

過去を振り返り無駄を省くという事が大切な事だとお分かりいただけましたか？

自分の生き方を理解していく事の方法は何通りかあるのですが、自己行動診断法という用紙に書き込んで自分を確認してみると良いでしょう。

記憶に残っている過去の痛い思い出などを一つ取り出して、自分の失敗しやすい箇所を発見する方法です。

① くい違いや失敗の概略 いつ・どこで・だれが・なにをした

② 状況は？

③ どのような人がいた？

④ 誰がどのような言葉を出して行動したか？

という順番に過去の思い出や、失敗したと思うときに自己行動診断法という用紙に書き込んでみてみてください。

もちろんメモ用紙に自由に書いていってもかまいません。

自己行動診断法という用紙は過去の状況を整理しやすいように補助する用紙なのでそれ以上でも以下でもありません。貴方がやりやすい方法をお持ちください。

日常メモを取る事は重要でして、頭の中にメモしていると複雑に思考する途中で前のことと忘れたりします。

忘れずに正確に思考する事がとても重要ですね。

また紙にメモをするともう一人の自分を紙の中に、メモの中に息づかせる事ができます。メモの中の自分を冷静に観察する事ができて、客観性が身についてくるという特典がありますよ。

観察メモ書きができたなら、①から④まで読み返し、えこひいきの心でなく平等な目でメモ書きの中の自分を観察し、取り上げた事柄の「ポイント」になっていると思われる箇所

に赤丸をつけてみるのです。

そうして次ぎに思考した事柄について、心得や反省点を見つけてみてください。

発見した反省点や心得を貴方の「人生のノート」に書き残しておくことで後で便利になってきます。

このように過去の状況をふりかえっておくと、自分を知らなくてききます。知っていると知らないでは貴方の次ぎの判断が天と地ほどに違ってきます。

「過去の自分をたずね、新しき自分を創造する」この言葉を覚えておいて下さい。きっと役に立つと思いますよ。

次ぎに現在の状況を整理して、どのように動けばよいのかという方法を考えて見ましょう。

状況を整理し活路をみいだす作業はとても重要です。

なぜかといえますと状況を知らずにムチャに押ししても、達成したい事も達成できません。

まるで何処に的があるのかもわからず、弓を射るようなものです。

日頃から状況を整理して、行動の無駄を省いていく作業を習慣としておくのです。

たんにやり方を知っているだけで、やればできると、習慣化しているのではおのずから違いがあります。

やりかたを知っているだけでは、その作業をおこなうだけで手一杯でしょうし、やればできる段階であれば思考方法や技術的なことで戸惑う事は無いでしょうし、習慣化していれば応用が利くようになるでしょう。

人生は同じは起こりにくいですが、しかし近い現象はおこりますし、人は応用力という能力を持っていきますから基礎的な思考作業の習慣化は人生の進路を変える力を秘めているといえるでしょう。

では何故整理して観察する必要があるのでしょうか。ようかつぎの乱雑に並べたアルファベツトをみてください。

「A D B C A B E C B E D A D B C A」

これでは何がいくつあるのかすらよくわかりません。

A * 4 B * 4 C * 3 D * 3 E * 2

いつも気になつた時にメモを取るなどの整理する事によつてAの数はいくらかBは・

・と人生の中の出来事がわかつてきますね。

整理していけばそれぞれの特徴がぼんやりとわかつてくる事があります。

そうしていけばやつていく事の順序がわかつてくるのです。

過去の整理で日頃メモを取り状況をふりかえる訓練をおこなつていけば、特長や事柄の

骨子が直感でわかつてくる事もあるのです。

どの事柄からこなしていけばよいのか早めに解ると、準備に時間をかけても大丈夫です。

立ち直りやあらたな歩みのための、状況の整理と順序を考えて見ましょう。

次ぎの方法は失敗を少なくする方法なので、色々考えながらやつてみると良いと思ひ

ます。工夫を重ね手短にすることも大切です。

またかならずしも、次ぎの順番や方法にしたがつて考えなくても良いですが参考まで

に紹介しましょう。

① 自分の置かれてる状況、周囲の状況のメモをとる

② どのような状況になつて欲しいか考える(目的)

③ 過去の事例や歴史などから近い事例を引き出して思考の参考にする(事実)

④ なつて欲しい状況に到達する手段を少なくとも三通りは考えて一通りごとシユミレーシ

ョンしてみる。(想定と模擬仮想)

⑤ もう一度目的の意味や意義を考えてみる。(おもいやり)

⑥ 計画を立ててみる。(計画立案)

⑦ やつてみる(実践)

⑧ かえりみてはぶく (反省)

このように書き出してみると難しく思うかもしれませんが、漠然とやつている事が多いと気付いてもらえれば、そんなに遠いところにある思考方法ではないことに気付くでしょう。

状況のメモを取る事から準備の仕方、計画などのお話しをしましたが、考えて準備をしていく事も行動の一つです。

昔からの格言によりますと「段取り七分」といって準備段取りが重要でその成果によつて成否が傾くといつても過言ではないでしょう。

もちろん即断即決の時も多いでしょう。

でも状況を把握しこなししていく順番を考える習慣ができていたら、決断までの刹那・

・今までと違う視野で判断の道が増えていけるのではないのでしょうか。

自分がなかなか行動できないという癖を持つていいるなら、しっかりした段取りや相手の事を考えて行動してくださいと、もしかしたら天は貴方にメッセージを送つていいるのかも

しれません。

一つの事に捕らわれず「もしかしたら・・・」と考えてみると、弱点が貴方の強みにな

つたり、それこそが個性というものになるかもしれないとおぼえておいてください。

慎重に歩むことは決して臆病ではないとおぼえておいてください。

なにより準備をし始めることから全ては始まるのですから。



くい違いや失敗の概略 (いつ・どこで・だれが・何をした)	
状況は？どのような人がいた？	だれがどのような言葉を出し行動したか？

☆上記の項目を書いてみて、この度のことの核だと思われる箇所に赤ペンで○をつけてください。

☆つぎにどのような心得や行動をもってすれば良かったか書いてみてください。

☆最後にこの件においてどの様に思うか以下のものに○をつけてください。

- ・利で動くべきだった
- ・情で動くべきだった
- ・道理で動くべきだった
- ・自己信念で動くべきだった

「日々をかえりみる」

誰にでも、ちよつとした努力でできること。それがこのたび紹介する「かえりみる」方法の特徴です。

簡単にできるからといってあなどるなかれ、簡単ではあっても基本に忠実であり突飛な派手さはなく、まさに堅実な手法だ。

一見派手なものは一度に自分を成長させてくれたと思わせるのだけれども、実際には身につけていない場合が多いようだ。

そこで誰でも知っているが、なかなか奥が深い日記に光を当ててみたい。日記・・・日々の備忘に使うと単なる補助記憶装置に過ぎない。

上手な使い方をすると、自分との対話のスクリーンになってくれるのだ。その手法には心神練磨内観法と格言書出法の二つが、**実際私のところでは学んでいる方々と有志の方の実践の結果、なんとか一人でもできるようだ。**

まず簡単な方から説明したい。

「格言書出法」

格言とはご存知のように、物事の要点やコツなどの要点を短い文章で言いあらわしたもの。俗にいえば「○▲語録」にでもなるのだろうか。

それをあなた自身の手で自分のために作るのだ。日常生活している中で貴方が感じた言葉を書き出していくのです。

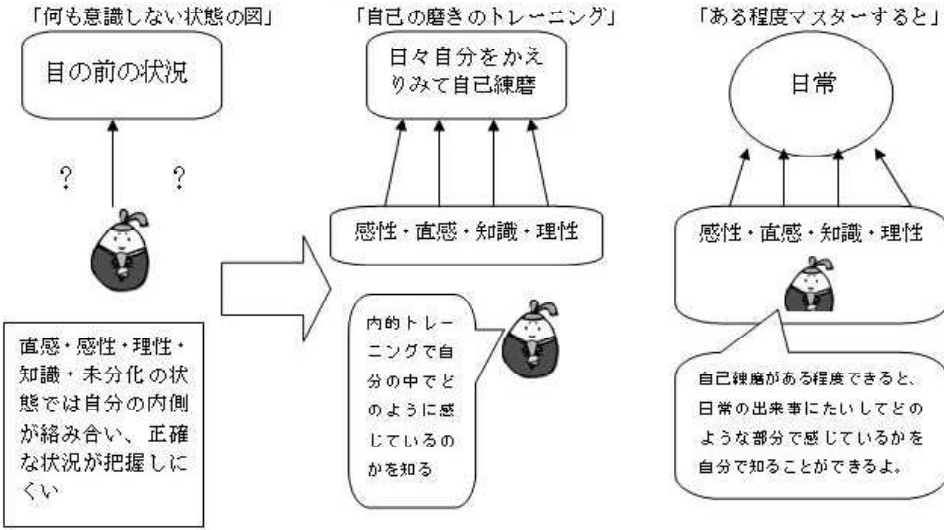
外から来るものとしては、本の中の一行であるとか、テレビやドラマの心に残った言葉などでも良いでしょう。

内なるものとしては、人を観察したり、ひらめいた事などを一度メモを取って清書しておくというのだ。

これは貴方が自然のうちに感じているものの、一つ一つの材料をまとめてみる事に意



日々かえりみると・・・のイメージ図



「心神錬磨内観法」

貴方の自由意志でじぶんの教科書を作ってみましょう。

注意する事はじぶんにかっこうをつけられないことです。

心は人を求めてしまうので、寂しいり、あなたが魂をあげることができません。

この段階になると自分のかたちを、ある程度確認できめるので、擬似的にあなただけの感覚が紙の中に現れ有効な場合が多い。その蓄積が瞬間にしかひらめかない。感じたりしたものは一瞬の刹那しか効めたりしない。

「心神錬磨内観法」

世の中、割とそうなっている場合が多いのでよく見ない。題名が難しいからといって内容まで難しいとは限らない。

必要があり、早始めると早く返る・・・孤独なように決

意した時間、早く返る・・・孤独なように決

一人の時間に自分を振り返る・・・孤独なように決

実した時間、早く返る・・・孤独なように決

日付	本の題名： 心に残った文句や書きとめておくべき言葉	著者：
自分の言葉での表現は？		
日付	本の題名： 心に残った文句や書きとめておくべき言葉	著者：
自分の言葉での表現は？		
日付	本の題名： 心に残った文句や書きとめておくべき言葉	著者：
自分の言葉での表現は？		
日付	本の題名： 心に残った文句や書きとめておくべき言葉	著者：
自分の言葉での表現は？		
日付	本の題名： 心に残った文句や書きとめておくべき言葉	著者：
自分の言葉での表現は？		

☆的確な言葉は貴方の伝えたいことを伝えられるようになります。
 ☆読書・新聞・テレビや会話などの言葉に注意をはらってみましょう。

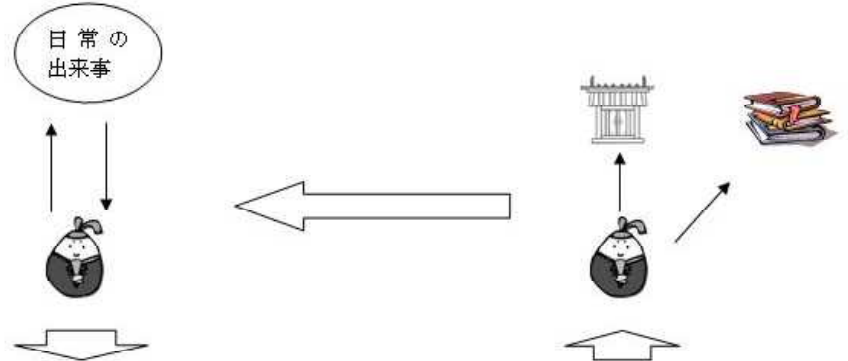
日々の中に自分を発見する鍵は秘められている。

日付	出来事	自分はどう感じた？	相手はどの様に感じているかな？	自分の良心や理想は？
日				
月				
火				
水				
木				
金				
土				
今週はどのような週であったか？			今週の自分はどうかであったか？己磨きは出来ていますか。	

「かえりみてはぶく実行サイクルの図」

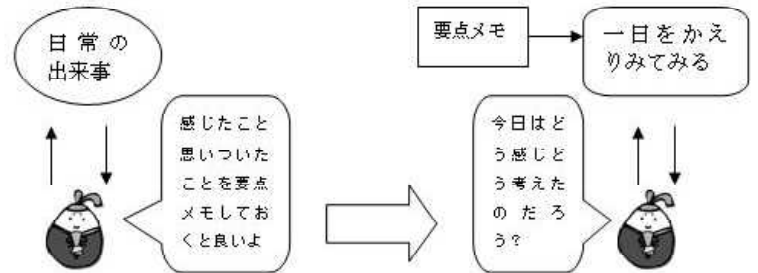
① 日常で普通に生活

④ 本など読み神棚に手を合わせ心を静める



② 日常での思いついた時

③ 一人の時間で工夫してみる



そのなかで一日をふりかえってみよう。心神練磨内観法は順序の確認のためには使用すると良いだろう。まず日記の欄を記入しよう。用紙では曜日ごとに欄が設けてあるはずだ。つぎにその日の出来事を書き込んでみる。余分なことを書くと、どれをとらえていいのか解らなくなるためです。入念に自分はどう感じたのかを書き込んでみよう。ここではできるだけ正直に書き込むことが大切です。も、ハラが立つことも悔しさも嬉しいこと。日の感情があるのは自然なことであり、今日のかきこむこと。なかでも感じた気持ちをかきこむこと。をきこむこと。なかでも感じた気持ちをかきこむこと。重要なのは正直に取り出してみることが重要です。自分の気が書き込めたら、そのときの相手がどのように感じているだろうか？という欄に相手の気持ちを予想して書いてみよう。相手の理由があり立場がある



月 日より

このは一週間どのような週であったのが日曜日になりがえってみよう

月 どれ? ニュース 本・雑誌 風聞 その外	いつ・どこで・だれが・なにを この情報の因果や原因の予想	備考
火 どれ? ニュース 本・雑誌 風聞 その外	いつ・どこで・だれが・なにを この情報の因果や原因の予想	備考
水 どれ? ニュース 本・雑誌 風聞 その外	いつ・どこで・だれが・なにを この情報の因果や原因の予想	備考
木 どれ? ニュース 本・雑誌 風聞 その外	いつ・どこで・だれが・なにを この情報の因果や原因の予想	備考
金 どれ? ニュース 本・雑誌 風聞 その外	いつ・どこで・だれが・なにを この情報の因果や原因の予想	備考
土 どれ? ニュース 本・雑誌 風聞 その外	いつ・どこで・だれが・なにを この情報の因果や原因の予想	備考
日 どれ? ニュース 本・雑誌 風聞 その外	いつ・どこで・だれが・なにを この情報の因果や原因の予想	備考

「社会状況の備忘」

そうして出来事・自分の感情・相手の感情の三つの柱が立ち状況が少しはわかりやすくなつたと思えます。

冷静になつたとき、自分の心の良心(心神)は用紙に書いた出来事でどのように動けばよかつたか心の奥底から浮かび上がってくる言葉を書き出してみましょう。

ここで書き出したことを実行できなくてもよいのです。

人は一つづつ学び、少しづつ磨かれていけばよいのです。

あせらず、人に知られず、たゆまず努力してまいりましょう。

じぶんを作る喜びを感じていただければうれしいです。

テレビやラジオ、新聞や電光掲示板などで目にする日々のニュース。

貴方はどのように受け止め感じているのでしょうか?

そしてニュースの大半、現れては時間と共に消えていく。

消えゆく出来事から何を学べばよいのでしょうか?

ばらばらの情報では、社会の流れがどのように進んでいるのか漠然としかわかりません。

これからの時代は、個人的にも時代の潮流を知り心得て行くべきではないかと思えます。

なぜかといえ、突発的な出来事に目を奪われることなく社会の変わりゆく様を想像して、できるだけ見通しの長い視野を持って歩んでいくこと。よき視野を育てる事ができれば未

来のトラブルを回避できたり、もしかしたらチャンスを見出すかもしれません。

そこで社会情報を整理して残しておくのと良いのではないのでしょうか?

忙しい日常でも良いのが、人生の方針を決めるような大切な時期には、たしかな情報収集と整理があつても良いのではないかと思います。

社会情報整理法用紙をみて下さい。

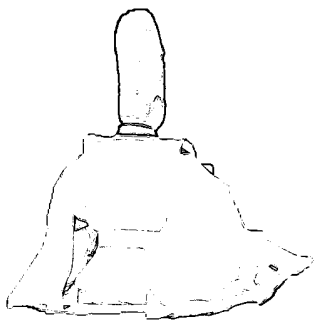
貴方が気になったニュースであったり新聞であったり気になる情報を書き込んでいくのです。もちろん新聞の切抜きをしていってもかまわないでしょう。それらを一週間単位、一月単位、半年・一年単位、または数年単位で通してみると次ぎの変化を予想する資料となるのです。もちろん情報収集は地道であり貴方の意志で自由におこなえば良いのであり、それにとられてしまつては何にもなりませんから、気楽に当たつていくと良いでしょう。一つの考察として参考にしてください。

第九章 「許しの章」

「許すとは何だろうか」

「人には二つの生き方がある。成功も失敗も愛するも別れも、苦しみの始まりとしてもがくか、それを許し次ぎに進むかの二つの道である。許さねば愛憎離苦の中にさまよい留まり、己の才能も埋もれたままとなる。許しとは負けではなく、みずからの人生を創造的になす知恵である。己の失敗も人の成功も許し、いつも新しく今を生きる鍵は許すにおいて他になし。許しの後は過去をかえりみるが良い」

許すとは何だろうか。人と仲良くするための目的で我慢をする、が許しではないと思うのです。我慢をするだけであつたなら、やがて我慢ができないものになつてしまう。そんな不安定な行動を「許し」という言葉で我々の先祖はあらわしたかつたのだろうか？。そうではあるまい、他者にも自分にも双方に良い部分が無ければ、とうの昔に死語になつていただろう。



言葉が生きているとは、どういつた事かというのと、言葉のもつていてる意味とそれを使つている我々現代人が、言葉を生み出した当時と同じ意味を持つていてるといつても良いだろう。もちろん言葉の意味のとらえ方が、変わる事があるのは仕方がないことだ。

言葉が残つているのは、いまだ許しという行動が有効性を残している証拠である。仲良くするための我慢であるなら、許しとは名付けず我慢という言葉がある。であるならば他の意味があると考察しなくてはなるまい。

形の上だけで許すと我慢になるが、心から許すとどうなるか考えてみよう。もし心から許せたなら、心に留まつていどす黒い気持ちに注目しなくて良く、やがてそれは心の浄化作用で時と共に無くなつていく。

恨みや悔い等の気持ちから開放されれば、重い感情から自分を自由にできるのはいうまでも無いが、日常の出来事などで出てくる小さな幸せに気付けるようになる。これは重い感情にとらわれていないから、心は人や周囲の環境に気を配る事ができる。気を配る事ができれば、変化を読み取る事ができる。その小さな変化を読み取る気遣いは、人との会話を綿密にしたたり人のしてくれた事のありがたさに気付く事ができる。

そうした時間をすごすと、過去の自分を平静に見つめなおす事ができる。平静な自己観察の心は、過去の自分の失敗要点や人との食い違い、人を傷つけてしまった事に気付けるようになってくる。

この行動を「かえりみる」といい、同じ失敗をしないように工夫する「**省く**」はぶができるようになってくる。

この段階で過去は記憶と経験だけが残り、次ぎに何をすればよいのか思案が始まる。つまり過去にとらわれず新しい可能性を探し、そこに到達する努力を開始する事ができる。あたらしい目的への歩みは、違った角度で人を見る経験にもなり、今までの付き合い人とも違った発見ができる場合がある。むしろ新しい出会いも期待できるだろう。以上のように許しとは、許しの深さによつて自己の可能性も広がるのです。

許しをうわべだけでとらえる愚を犯さないでください。人の世では貴方の心が、上手く伝わらないのはあたりまえなのです。

人は霊長の生き物といわれています。霊長とは高い精神性を有しているからこそ、そのようにいわれるのです。スポーツやルールのある格闘技に、選手として出場したならば逃げ場所はありません。ルールという箱の中で力の限り競い合うのがスポーツですから、逃げるのは負けにつながる事でしょう。しかし人生はスポーツではありませんし、ゲームでもありません。どこまで、なにを、どうするかは貴方の自由であり、自己の裁量の中にあります。あなたは自由に生きたいですか？、それとも憎しみに縛られていきたいですか？。宝物とは「**宝**」他から**来**る**物**の**意味**でもあり、外から来るものを乗せる貴方という器が無ければ宝物を得ることは出来ません。貴方の心をくしみて、いっぱいにしていてどうして幸せという宝物を感じる事ができるのでしょうか？。よく考えてみてください。許しの大切さを・・・

「自分をキレイに許すには」

「自分を許せないのは、努力もせず忍耐もできなかった時に多くおこる。努力にも種類がある。人格を磨く努力、仕事や目的の為の準備、人付き合いという努力もある。その中で重要なのは人格を磨く努力。仕事や学業、家庭・遊びといったそれぞれの中で、貴方の人格を試すチャンスがいつでもあり、また自己を磨く材料がひそんでいる。生活全般に自己の磨きをなすを生活修行という。この発想は貴方を昨日より今日、今日より明日と次第に成長させてくれる知恵である」

人の成功をみてうらやむという重い鎖、技術的な努力をしても人に伝わらなかった失敗、心を伝えようとして伝わらなかったという失敗・・・いろいろあるだろう。

古い言葉にも言っている「勝敗は時の運」と・・・

人の手ではどうにもならないものがある。

手に届くものであるなら、手を伸ばしてそれを取ればよい。

歩いて行けばよいのなら、歩いてその身を運び手を伸ばせばよい。

人との係わり合いは、向こうから歩いている人や走っている人へ、自分も歩いているか走っている状態で物を渡して、リレーしていくようなものであると考えると歩いていこう。そのような環境では、すれ違いも失敗も普通におこることであると、考えておいたほうが賢明であろう。

こういった人間界や自然界でおこる要点を心得ていたならば、失敗した事にもそう腹は立たないのだから、限界を知るからだろう。

自分のいたらかなさを許すには自己研鑽が良い。

自己研鑽とは、読んで字の如く自己研鑽が磨く自己努力というほどの意味だ。

自己研鑽とは自分の力でかした事を反省するだけが自己研鑽とは呼べず、どういふ自分でありたいのかといったことや、自分の限界を知ることであったり、自分はどのような価値観を持っているのか調べる事も重要な事だろう。

自分を磨いていると不思議な事に、多少の失敗を気にしなくなる。

自分という作品を完成に近づけるための材料として、様々な経験が必要になる為だ。

自分をキレイに許すには、自分をしっかりと磨き上げていくのが良い。

自己を磨く努力が、許せない自分を清めてくれるらしい。

「他者をキレイに許すには」

「他者を許す知恵は運命の法則やしくみを知り、人の習性を知ることから始めると良い。人との間合いをつかみ誤解を減少させる努力も必要である。自己の限界と人界の摂理を知る者は知恵ある者。そこには目に見えぬ運命の流れも感知できる故に・・・」

人を許すと自分にも可能性が広がると前に書いた。そのことをもう少しお話しようと思います。

これらの知恵は古来より先人がおられます。人は手の届く範囲の感覚で生活している時は、謙虚さやいたわりを中心に考えていれば十分で、なおかつ美しい行動です。

しかし人とかかわりが広く大きくなってくると、色々なことが出てきます。手の届く範囲以上の職業についていた人たちの言葉は、時として様々な知恵をもたらしてくる場合があります。もちろん名工といわれる職人や、達人といわれる武道家なども素晴らしい知恵を残しています。

たとえば昔の武家などが宇宙の法則や立命学(運命の法則などの学び)に注目し、手習いとして学んだようです。その形態は親から子へ又は学の深い人について学ぶ・・・を見ていくと参考になるのではないかと思えます。

親から子へ又は人格のすぐれた人について学んだ場合、書物から得られる知識のみではなく、言葉でとらえにくい雰囲気であったり、様々な会話の中すべてに教えがあったからです。

人は頭だけで判断しているのではなく、体全体で感じ取りその感覚を成長させていった先に、宇宙とか天地と呼んでいるような法則を感じる事ができるのです。もちろんこれは師匠と弟子が、高い感受性を宿していなければなりません・・・

さて公家や武家がどうして人の世の摂理や、宇宙の運行などといった抽象的なことに興味があったかというのと、わずらわしい日々の雑事の中で自己を平静に保とうとした知恵であり、過去に捕らわれずたえず今を見る必要が日常にあったからです。

昔のように感覚的にすぐれた人が、たくさんいる時代ではありません。(時代が商業的なものしか許さない時代だから感覚的な人が育ちににくい) ですが貴方の知性をひきだし大きな運行をイメージし、感覚を引き出すのは有益であるでしょう。

知識として運命や大いなるものを知るだけでも、他者を許すきっかけになると思いますが。

第十章 「人として歩むの章」

「今と今の中と生きていく」

相談事に来られる人でなぜそうなんだろう?と、思う事が度々あるお話に出会います。一体それはどんな話かというのと、「今という中に生きる」という発想を忘れておられるのではないかと思わされる事です。

たとえば悩み事の多くは過去の出来事をいつも悔やんでいる人が多いですし、悩み事だけでなくもある程度自信のある人が、過去の成功を引きずっていて成功したときと同じ方法をして失敗してしまいう場合などです。

過去に想いが捕らわれていたり、未来に夢を託しすぎていたりすると大切な何かを置き忘れていく人が多いようです。

心を置き忘れていくと、どうしても今起こっている出来事が見えなくなってしまうという精神状態になってしまいうようです。

今を生きていく事、つまり今何をしているのだろうか?今どれを選べばよいのだろうか?という感覚で生きる事です。

しかし今を生きていくという発想には支える柱がいくつあるのです。自分の人間としての器を磨くことであり、精神を安定させ平常心を維持できる工夫をなしていくことです。

今という中に価値を見出すには、今出来る最善をつくすことでもあり、人と一緒にいるときにできること、家族と共にいるときにできること、一人のときにすべきこと、などそれぞれの場面にありたい自分に近づけるように自分を動かしていくことが大切です。

今という一瞬の刹那に求められる判断の中には、とても重要な決断がまぎっていません。とても重要な判断を必要とするそう言ったものは、その多くはいくつかに分解して目の前にあることもありまじ、なんでもない様にかんじることもあるとおもいます。

それらを逃さない様に直観力を生かすには日頃の自分の磨きが重要になってくるので

時として良く聞く話の中で、「そんなめんどくさいことできません」なんていう人もたまにいますが、人は自分の人生を肩代わりしてくれるなど、ほとんど無いという厳しい現実から眼をそらしている事実に気づいて欲しいものです。

そういうった人に私はこう質問します。

貴方が友達としてお付き合いしたい人は、自立していて素敵な人ですか？、それとも自分で自分の事も出来ないならだらした人ですか？

と、お聞きしたらたいの人は素敵な人が良いと答えが帰ってきます。

反対の答えをした人は単に天邪鬼な人か、または一緒にいたらだと人の文句をいいながら適当に暮らしていきたい人でした。

今を生きたいという発想でいきるには準備は多少必要ですが、今からでもできるのです。いまお話しを読んでいます。何を讀んでいるのか？たとえ自分の持つていなかった話でも理解しようとする気持ちがある今を生きたいという事につながるのではないかと思います。

人は今・今・今を重ねて生きているのです。

未来でも過去でもなく、今を生きているのです。過去に悔やむ事があっても、未来に不安があっても、いまどのようなに生きるか？どのような判断をするのか？、これから先の貴方であり未来を選ぶものであるといえるでしょう。

今を大切にできない人が、未来において人や自分または成すべきことに忠実であるのでしようか？

今という貴方の周囲に目を向けるとたいの場合、平凡さが横たわっているでしょう。平凡さの中で貴方は何をするのでしよう？

生き方は自由です。自由だからこそさまざまな道を選べます。

過去や未来に思いを投げすぎると、多くの場合、やってもいないうちに自分にはできないとか、このやりかたは間違いだとか限定してしまう。

過去にできないからといって努力もせず自分を試すこともせずにあきらめてしまう人。未来のイメージを作りすぎていて方法を限定してしまう愚かしさ。

今を生きたら「うたがわす、信じすぎず、やってみる」という心得が大切です。

なかなかうまくいかない人や、悩み多き人の共通点は、「それは夢に過ぎない」「努力することはかつこわるい」「自分には無理だ」という暗示を小さな頃より自分にかけて続けている場合が多いようにおもいます。

自分で自分にかけて「できない」という魔法を解くには、今という中にいる「**中今(なかいま)**」というこの心得の呪文が必要でしょう。

自分で縛っている心の鎖を解き放つのです。「中今」という呪文によって・・・



「心の四季」

人に感情があるのは普通であり自然です。

感情それは喜怒哀楽、愛憎離苦があり自然界の四季と同じようなものです。

いえ縮小した縮図のようにおなじものだともいわれ

ています。それを「雛形」といい三月のひな祭りを思い出して

いただければ、イメージで書けるかもしれせん。お

ひな様は宮廷文化の縮図でありそれを写しているも

のです。おなじ意味を持ち共通しているけれども大

きさがちがうものを「雛形」とよびます。

人は宇宙の雛形と古神道の世界ではいわれています。

老のようなどころを切り口にして、心の存在を考えてみましょう。

碧の山々は美しいですね。

青く広がる海は偉大ですね。

とうとうと流れる河はふしぎですね。

さらさらとせせらぐ小川は心洗われます。

町も覆う白い雪は醜いものも色鮮やかなものも一色に視界をかえますね。

自然の美しさを形容する言葉はつきないことでしょう。

しかしその自然も人間にとって、都合の良いものだけでも、美しいだけではありません。

豪雨に日照り、地震に台風、台風に津波とさまざまな脅威も人に見せつけます。

人は文明のゆりかごの中にくるまれて守られているとき、この脅威を実感する機会は少ないかもしれません。

文明は先人の知恵の結晶です。

大雨が降っても堤防や水の流れを分散できるような技術「治水」をわれわれは持って

います。

少々日照りが続いていても水をためる池を作る技術を持っています。

そのほかにも我々を守る技術はたくさんありますね。

例えば無人島などでキャンプをした経験を持っていたら、わかるところですが、文明の利器を持ち込むには限界があります。

限界以上にたくさんの文明の利器を持ち込むと、かならずゴミが出て自然を汚します。

それは文明の文物の循環のサイクルの中に我々文明人は生きているのであり、そのサイクルから外れるとたちまち不循環がおこりゴミが生じます。じつはゴミの話がしたいわけではないのですが、文明の中にいる事がどれほど安心であり楽ができていくかを知ることができるでしょう。

文明は人に安らぎを与えます。ですからそれが永続できるように、我々の存在を許している自然をいたわる方向に文明を發展させなくてはなりません。

自然のままでは、自然の中にはおり出されたとき人は無力です。

自然と文明のちようど中間点が人の住むのに理想的なのかもしれません。

自然の移り変わりのように貴方の中にある心の四季。

自然と似ている「雛形」の貴方をふくめた人は、何も自分自身を作る努力をしなければとても不安定な存在なのです。

人と交わることそれは文化であり文明です。そこより人の総ては始まり永続しているのです。

貴方の心の四季は、穏やかな時もあるでしょう。しかし激しく揺れるときもあるでしょう。

自分を改革していくとは、心の中または理性という文明を築き上げる事であり、人に優しいものになしていくのが理想でしょう。

ただいえることは文明を入れすぎると自然は壊滅してしまいます。

反対に自然のままだと人は安らげない場合が多いです。

感情の大切さとありがたさを胸に抱きつつ、周囲の人が受け取れるかたちと速度で心を投げて交わると、貴方の中で自然の美しさと文明のありがたさが融合し見事な人格を形成する事でしょう。

感情を下等なものと見下しては自分を否定していると同じでしょう。

かといって理性をわずらわしいものとして、貴方の思考力を否定してしまいます。

どちらもあるのです。どちらも偉大なる存在が人に与えたのです。

あるものを否定せず融和していく努力、たしかにその性質は「火」と「水」でしょう。そうでずどうして我々先祖は偉大なる存在を「カミ」とよんだのでしょうか？

「火」と「水」のように一見交わらないものも交えてしまう存在・・・だから日本語を作った先祖は「火水」とも読み「神」の字にその意味をあてたのでしょうか。

肉体の中に魂があります。魂は心を窓口として肉体にその姿をあらわします。

はんたいに肉体と心を仲介として、魂に働きかけることもできます。たましいは大いなる存在の意思を知っています。

心の磨きは魂の世界と現世を結び、結ぶ事によつてはじまる役目があると聞いています。内的世界において大切な鍵は・・・感情と理性ですよ。

「用・美・道のお話」

次ぎにお話しをするのは「用・美・道」についてです。

「用・美・道」とは日本の精神文化の重要な位置にあるものではないかとおもいます。この用・美・道という発想自体は新しいものではありません。

新しくないからといって眼をそむけるのは、ナンセンスです。

なぜならば、人は宇宙の中、地球という環境の中、民族という遺産の中にあるものであり文化とか文明というゆりかごの中に存在しているものであるからです。

一見新しいものでも、それはたまたま貴方が眼にしていなかったものであるとか、流行っていないかったものであると観察していつてください。

ですから平等な眼で観察していつてください。新しいものも古いものも・・・

そうして有用なものを選び出して貴方の物にしていつてください。そこで重要になってくることがあります。

このお話しはセンスの問題に近いのですが、日本人の特性としてしつかりやっていくと、どうも血の中に含まれているといえますか、そういった感覚があるようです。

「用」とは実用に足るとか、用を足せるとかの技術的な、と言うほどの意味です。単に技術のことを指すかといえ、そうではありません。

作業工程の用を足す事ができるといふ表面的な意味から実用に足るといふ意識を内包

しているとおもいます。

たとえば何度となく繰り返す作業であるならば、自分の動きを意識的に観察し一つの工程にいくつの動きがあるのか見ていつて、一緒にできる動きがあるなら、それらを一つにしていき動きの無駄を省いていく事ではないかと思えます。

「用」という言葉は、ただできる以上の熟練するという意味なのでしょう。用という言葉の次ぎに「美」という言葉の理念をお話します。

「用」という言葉の意味を深くかみしめていくと、無駄が省かれていきます。無駄が省かれていった動きはとても美しいですね。

無駄が省かれていつた上でさらに意識を高水準で維持できるようになると、動作・心・調子の三つのリズムが整って美しく見えてくるのです。

美しく見せようとして美しいわけではなく、一つに集中し無駄を省き、意識を高水準に維持する。

そういった刹那に人は生命のきらめきを引き出すのでしよう。優れた職人さんや古武道の達人の動きは美しいですね。

心を打つものがあります。「用と美」が完成してくると、作業の動作の中に高水準の意識を維持できるようになるとお話しいたしました。高水準の意識を維持する事で、深い意識は瞑想状態に入ることがあります。

「用と美」が完成してくると、作業の動作の中に高水準の意識を維持できるようになります。この脳波状態ではひらめきや言葉でわかりにくい摂理などを感じる事があります。

この脳波状態で閃いた事などは人の隠された能力なのでしょう。正確なことが多いようです。

「用と美」が完成してくると、作業の動作の中に高水準の意識を維持できるようになります。この脳波状態ではひらめきや言葉でわかりにくい摂理などを感じる事があります。

ひらめきばかりではありません。深い摂理を感じる事があります。少しですがわたくしもそういった摂理を感じた事があります。

そういった摂理とのシンクロは、人の命や運命、時として道徳性などを教えてくれます。

す。

この体験は、言葉で申し上げるにはずいぶん感覚的で難しいのですが、一瞬で一度に押し寄せてくる感じでした。

たとえたなら、インターネットなどで活用されるデータ圧縮したものが送られてくる感じでしょうか？

それに注意を向けつつ意識状態を高水準に維持すると、その深い摂理の情報を解凍展開することができません。

しかし問題が在ります。

そういった方々の口から語られる深い節理の知恵はごく一部なのです。

なぜならば言葉の合間合間にすり抜けていくような、言葉に置き換えにくい感覚が大半だからです。

ですから摂理の感覚を体験した人は、物静かに語ることが多いのかもしれませんが、「用と美」をある一定以上体得していくと道徳性以上の貴方の道を獲得できる場合があるというお話です。

やりとおしていくと色々な局面に、宇宙の摂理を感じる場面が用意されています。それもいたるところです。

だれにでも生命の・・・宇宙の・・・奥深さとつながっているのです。

つながっているけれども認識できない、意識できなくとも無意識下で理解できる基盤こそ日本文化というゆりかごなのでしよう。

文化とは人間という種族が誕生し、魂の修行場としての現社会の魂の真実に回帰する手がかりの一つであります。

もちろん魂の真実を知る手がかりとして、文化とは、あるべき場所へ導くための手段としてあるのみであり、良い悪いではなく、永遠の魂の営みにすれば一瞬であるのだけでも、それは真実であり、たとえ仮の姿としても幻影ではないのです。

先人の残した手がかりをもとに、言葉であらわせない、かたちのみではない、精神の深いところで大いなる生命とつながる、このことが秘伝を継承したといえる状態なのでし

よう。

祖父より教えられた数々の祭祀の口伝。

その中に浅いものもあれば深いものもある。

口伝や伝承を習得しようと努力する時、私は多くの先祖とはるかな先祖、そして遠くにいるようで近くに感じる偉大なるものの存在があり、今でもそれはある。

どのような道であれ正しいさがあり自分を深めるという意味があれば、魂の道を誰でもたどれるのかもしれない。

もし貴方が一つの摂理を体感したからといって決して^{おとし}奢らないでください。

それは一つの真実であって、万能ではないのですから・・・

そしてもっと深めてください。貴方という心と魂の世界を。

それこそ誰にも奪えない貴方の宝物です。

日常の小さなところにそのきっかけはあるかもしれません。

人は無数の影響を受けて存在している奇跡的な存在だと感じる事でしょう。

でもそれを感じる事ができるのは、あなたの努力とセンスにかかっています。気付いていますか？貴方の足元の小さな花を・・・

「人生という宿命」

終章 「惟神の章」

「人生という宿命」

もしも我々を生み出した宇宙に何らかの意思があるなら、いや今、我々が悩み苦しみます。

そして歩んでいる自分や人がある以上、宇宙には意思があるはずだと古代の人も考えたのです。

古典を探して宇宙に意思があるかを推理してみたいとおもいます。

「古事記」と書いて大和言葉では「ふることふみ」と読みますが、この古典は今か

ら1300年ほど昔に書かれた書物です。
その本文冒頭ですが、少し紹介いたしましょう。

「古事記」

別天つ神五柱

天地初めて發けし時、

高天の原に成れる神の名は、

天之御中主神。

次に高御産巢日神。

次に神産巢日神。

この三柱の神は、

みな獨神と成りまして、

身を隠したまひき。

と書いてありまして、宇宙の最初の出来事について書いてあるのです。
ここで注目したいのは一番最初に書いてある御神名についてです。
日本には古くから言霊という言葉の持つ力を信じる信仰がありました。
その言霊の解釈を利用して説明したら・・・冒頭の神様の名前は



「天の」は大いなると言うほどの意味で、「御中」は身なか、体の身をあらわし、つまり物質を指します。「主」は意思をあらわします。すべてつながって考えたなら次のようになります。

「大いなる宇宙物理の意思という存在」になるのです。
古代の人々も同じように、宇宙には意思があるので

はないかと感じていたのでしょうか。

すべての人は人生という宿命を背負っています。
人生という宿命は、何も決まっていけない未来に、貴

方は放り出されとぼとぼと歩いてる。
なぜ何も決まっていけない時間を通してこの世を歩ま
なくてはならないのか？、何も決まっていけない様でい
て「生れ落ちた地域や家によってある程度範囲のある
人生の選択範囲」、どうしてなのでしょう？

人とは何でしょうか？
宇宙という自然は、人という物を生み出し人生とい

う宿命を我々人に与えました。
人によっては宇宙という言葉を「神様」といっても良
いですが、「大いなる存在」と呼んでも一向に差し支え

ありませんが、指すものは変わりませぬ。

宇宙ってどんな存在なのでしょう？
大きすぎてとらえられないので詩の形式にしてイメー
ジしやすいようにしてみましよう。



「あめつちのことわり」

宇宙の始めより、
宇宙の終わりまで不変なるもの
物理世界にあるようで無く
言葉で捉えれそうで とらえられないもの、それを天地の理という

すべては一つより始まり
無限の広がりを見せ、
個々に意思がありながら
重なり支えあっている。

独立した意識を持ちながら
大いなる意思と共にある

大いなる意思がありながら重複せず
生命の運行は一つとして違ふところは無く
また縁の途切れるところなし

天と地、生命を育み
生命を万物は分かち
万物は理に繋がり
理は途切れることなく営まれる

生命の大本にまた天地あり
人の目には天地が広がるのみであるが

その先には宇宙の広がりがある

なかなか頭で考えた時、宇宙は単純な様でありながら複雑ですね。

なぜなら貴方の心の中も宇宙の一つなのですから・・・
宇宙という大いなる存在が人という入れ物に貴方という魂を入れて、何かをさせるためにいま貴方は存在しているのです。

どうして宇宙という意思は人生というものを与えたのでしょうか？
もし自由な意思や何も決まっていけない未来が無ければ、なかなか行動出来ないとい
つて悩む必要は無いはずですよ。
でも実際にそれがありません。

ある以上、正面から向かい合わなければ納得できるような答えは出てきません。

しかしそれはとても簡単な答えではないでしょうか？
宇宙という視点から見ると、成功や失敗という人間レベルのことはあまり関係がな
いかも知れません。

しかし――一生命考え・もがき・苦しみ・一瞬一瞬の判断と大いなる決断」を正面にと
らえて取り組む為ではないでしょうか？

「何もわからない未来」や「自由意志」というものがあるのは、何もわからない未来の
不安を自由意志によつて 目の前にある出来事を貴方の心のままとらえ、自由裁量によ
つて出来事の意味を抽出し、自己との格闘を成していくという宿命があるのでないでし
ょうか？

不安があるという事は、もしかしたら天が与えてくれたメッセージであると、とらえて
行くならば不安はもしかしたら、魂のお勉強の教材となるのでしょね。

さあ人は何処に向かつていくのでしょか？
もう一つ詩をつづり・・・それを写すところみを。

「星の光」

星の煌きは一瞬であるが
星そのものが無くなつたわけではない
幾年幾億の時をかけて
渡り歩く星の光は 私たちに似ている

今世の光が 終わっても
私たちが歩みを止める事はない
遙か遠い故郷へ帰るのか
それとも新天地を めざしているのか？

星は闇の中の 一条の光
深淵の闇を焦がす 満天の星々
一つの生を終えるまでに
星の光は どこまで行くのだろう

校了日 平成十九年六月十五日
改定日 平成二八年五月二一日

謹書



「なやみ解決の探し方と運命の法則」編集委員会 和源神道内

和源神道公式サイト

<http://www.ibara.ne.jp/~konzin>

和源神道 ↓検索

2016 (C) 和源神道

著者 猪岡鷹塚

和源神道 大祝 兼 金峯神社宮司



なやみ
解決の探し方と
運命の法則



和源神道